

情報学部 総合情報学科

学士課程教育プログラム

1. 大学の目的

本学は、教育基本法並びに建学の精神と理念に則り、深い専門の学芸の教育研究を通じて、豊かな教養と専門的能力を有する質の高い職業人を育成し、社会と産業の発展に寄与することを目的とする。

2. 情報学部教育研究上の目的

情報学部は、豊かな教養及び情報学に関連する基礎から応用までの十分な学問的知識を有し、創造力に富み主体的に行動できる質の高い専門職業人を育成するとともに、情報学を中心とする分野の深い研究を通して新たな知識を創造することを目的とする。

3. 学科の目的

情報学部総合情報学科は、情報化社会に対応しつつ、ビジネスの中核を担う企画力と実行力を有し、社会と積極的に関わり社会に貢献できる人材を育成することを目的とする。

4. 総合情報学科の教育の目的

総合情報学科の教育の目的には、教養力の育成と専門力の育成があります。

教養力の育成とは、本学在学中はもとより、社会人として活動するために必要な基礎力の鍛錬と人格を含めた自己形成がその主な内容となります。命の大切さを知り、われわれを取り巻く社会や自然、さまざまな文化活動について、幅広い学問領域の学識の一端に触れることで課題を発見し、主体的に考え、必要に応じて自ら行動できる人間力の豊かな人物を養成します。仲間とコミュニケーションをはかり、協働し合い、自分で自分を磨き上げる苦労を喜びへと促します。

本学科が目標とする専門力の育成とは、社会に通用する生きる力、ビジネス現場で欠かすことのできない問題解決能力、大人から子供まで幅広い層におけるコミュニケーション能力、社会人として必要とされる基本的な情報処理能力を有し、社会・組織の一員として自らの役割を果たし広く社会に貢献できる「人間力」豊かな人物の育成です。近年における企業や社会を取り巻く環境は、大きく変化し、今後更に多様な変化が生じると推測されます。

こうした変化の中、企業や地域社会が求める人材に必要な能力である「地域力」にも大きな変化が見られるようになりました。社会の変化に対応し、企業人として働き心豊かな生活を送るためには、心身の健康が必要不可欠です。我々を取り巻く環境においても、さまざまなストレスに対し耐えうる能力が求められます。そうした人材を育成するために、新たな時代のビジネスパーソン（企業人）になるための基礎的知識を学ぶと共に、企業経営、健康やスポーツ関連の専門科目について企業経営・地域社会に貢献するに資する人材になるため経営情報・スポーツ情報に関するデータなどの分析力、考察力などの「科学力」を用いた問題解決能力を育成します。

なお、本学科は経営全般を学ぶ経営情報分野と健康とスポーツ関連領域を学ぶスポーツ情報分野を設定しています。学科の教育目標を達成するために標準教育プログラムにおける道しるべとしての履修モデルに沿って学びます。経営情報分野では管理・起業・経営を学ぶ「マネジメント」、経理・財務・金融を学ぶ「アカウンディング・ファイナンス」、営業・商品開発・広告を学ぶ「マーケティング・ロジスティックス」モデル、スポーツ情報分野では地域共生力・健康・運営を学ぶ「スポーツマネジメント」、競技力・指導力・科学力を学ぶ「コーチング」のモデルを学修します。

5. 学位授与の方針

大同大学の学士の学位授与の方針は以下の表-1 の a, b, c, d の 4 つです。内容は 5.1 で詳述します。総合情報学科では、この 4 つの方針それぞれに関して、専攻での学習内容に沿って複数の学位授与方針（合計 12 個）を設定しています。内容は 5.2 で詳述します。

表-1 大学の学位授与方針と総合情報学科の学位授与方針の関係

大学の学位授与の方針	a		b			c					d	
総合情報学科の学位授与方針	a1	a2	b1	b2	b3	c1	c2	c3	c4	c5	d1	d2

5. 1 大学の学位授与の方針

大同大学の学士の学位は、以下の 4 つの力を身につけている者に授与する。

a 社会人として活動するために必要な基礎的な能力を身につけている

健全な倫理観に基づき、規律性をもって主体的にかつ目標を定めて行動する力、現状を分析して目的や課題を明らかにする力、他者と協働するためのコミュニケーション力を身につけている。

b豊かな教養を身につけている

教養ある社会人に必要な文化・社会や自然・生命に関する一般的知識を身につけ、異なる思考様式を理解する態度と力を身につけている。

c確かな専門性を身につけている

自らの専門分野の基礎から応用までの理論・概念や方法論に関する知識を身につけ、当該分野の情報・データを論理的に分析し、課題解決のために応用する力を身につけている。

d豊かな創造力を身につけている

獲得した知識・技能・態度を総合的に活用し、自由な発想の下、独自に工夫・応用し、新たな知見を創造する力を身につけている。

5. 2 学科(専攻)の学位授与の方針

総合情報学科では、以下の学位授与方針を満たした者に学位を授与します。

a1. 社会人として活動するために必要となる基礎的な知識や技能を身につけている。

社会人として活動するために身につけておくべき基礎的な知識や技能は、レポート・論文の作成、プレゼンテーション、他者とのコミュニケーション、健康管理、PCを使ったデータ処理など、多岐にわたります。人間科学科目群Aグループにおいては、初年次教育、外国語科目、スポーツ実技、DX科目等を開講しており、これらの科目を通じて社会人として基礎となる知識や技能を学びます。また、各学科・専攻により独自に開講している科目もあります。なお、この項目 a1 と次の項目 a2 は互いに密接に関連しており、両方とも身につけることで「社会人として身につけるべき基礎的な能力」が完結します。

a2 正しい現状分析や健全な倫理観に基づき、主体的に課題や目的を明らかにする力を身につけている。

身につけた知識や技能を仕事や研究の現場で活用するためには、主体的な姿勢で課題や目的を明らかにする力が必要になります。また、現状を正しく分析する力や健全な倫理観を持つことも必要です。人間科学科目群Aグループにおいては、初年次教育、外国語科目、スポーツ実技、DX科目等を通して、現状を正しく分析する力、健全な倫理観、主体的に課題や目的を明らかにする力を学びます。また、各学科・専攻により

独自に開講している科目もあります。なお、この項目 a2 と前の項目 a1 は互いに密接に関連しており、両方とも身につけることで「社会人として身に付けるべき基礎的な能力」が完結します。

b1. 歴史・文化・こころの理解に関する一般的知識およびそれをもとに思考する力を身につけている。

現代社会ではさまざまな情報が氾濫しています。これらに惑わされることなく正しい情報を見極めて良識をもって行動するためには、「教養ある社会人」として歴史や文化、社会のしくみ、自然科学などに関する一般的知識を正しく身につけ、さまざまな思考様式を理解する態度と力を身につけている必要があります。また、仕事等の実用面のみならず、今後の人生を充実したものとするためにも「豊かな教養」を身につけることは大切です。

「歴史・文化・こころの理解」に関する一般的知識には、歴史学、文学、哲学、心理学などが含まれます。人間科学科目群Bグループにおいては、歴史・文化・こころの理解に関する一般的知識およびそれをもとに思考する力を学びます。また、各学科・専攻により独自に開講している科目もあります。なお、社会人としての「豊かな教養」を身につけるために、項目 b1、b2、b3 はできるだけ偏りを作らずに修得することが望まれます。

b2 社会のしくみに関する一般的知識およびそれをもとに思考する力を身につけている。

「社会のしくみ」に関する一般的知識には、政治学、経済学、法学、社会学などが含まれます。人間科学科目群Bグループにおいては、社会のしくみに関する一般的知識およびそれをもとに思考する力を学びます。また、各学科・専攻により独自に開講している科目もあります。なお、社会人としての「豊かな教養」を身につけるために、項目 b1、b2、b3 はできるだけ偏りを作らずに修得することが望まれます。

b3. 自然科学に関する一般的知識およびそれをもとに思考する力を身につけている。

「自然科学」に関する一般的知識には、自然科学概論、生物学、地球科学、認知科学などが含まれます。人間科学科目群Bグループにおいては、自然科学に関する一般的知識およびそれをもとに思考する力を学びます。また、各学科・専攻により独自に開講している科目もあります。なお、社会人としての「豊かな教養」を身につけるために、項目 b1、b2、b3 はできるだけ偏りを作らずに修得することが望まれます。

c1. 情報学の基礎として数学、自然科学を理解し活用することができる。

情報学のさまざまな分野で自然科学の知識が用いられます。特に、力と運動の関係や熱や電気の性質を理解するために物理学、材料の特性や自然環境を理解するために化学が必要となります。また、専門分野で用いられる数式を理解し応用するためには数学の知識が必要となります。専門基礎科目群では、専門分野の基礎となる数学や自然科学を学びます。それぞれの専門科目の知識を習得するためのみならず、専門分野において創造的な仕事や研究をする上でも、これらの基礎知識をしっかりと身につけておくことが重要です。

c2 情報化社会にふさわしい倫理観を持って他者と協調・共同し、適切にコミュニケーションがとれる力を身につけている。

現代社会は情報化社会としての移り変わりのスピードが一段と速くなってきています。そのような組織社会の中で、他者との協働によるチームとしての活動により目的を達成していく必要があります。そのために、社会において、自らの行動に際し、倫理的な判断と他者との適切なコミュニケーション能力が求められています。

c3. データサイエンスに関して、経営またはスポーツの分野の調査・分析で求められる水準の知識・技能を身につけている。

企業においては、データを管理、加工、処理、分析をするためのスキルが求められています。スポーツ分野でもデータ分析を試合で活用したり、自らのパフォーマンスを向上させるために用いられるスキルです。分析結果を価値創造に生かすためには、データの背景を十分に知る必要があり、カリキュラムにおいては、経済、経営等の経営学関連科目やスポーツ系関連科目だけではなく、情報、統計、データサイエンス関連科目によりそれらの知識・技能などを身につけます。

α4. 経営またはスポーツ分野の基礎から応用までの理論・概念や方法論に関する知識を身につけている。

企業や地域社会において有為な人材となるためには、汎用的な基礎的かつ応用的な考え方が大切です。また、企業や地域社会で起きる様々な問題を解決するためには、さらに経営またはスポーツの理論や概念などの知識を身につけそれを活用する方法を学ぶ必要があります。

α5. 経営またはスポーツ分野の情報や調査・実験データ等を論理的に分析および考察することができ、かつ問題解決のために応用できる力を身につけている。

社会生活において、情報の管理は不可欠です。ビジネス文書やスプレッドシートの作成や管理だけでなく、データベースや情報ネットワークに関する基礎知識とスキルの習得も必要です。これらの知識とスキルを活用した問題解決能力を発揮できるための素養も身につけます。

d1. 獲得した知識・技能・態度を総合的に活用し、自由な発想の下、独自に工夫・応用し、新たな知見を創造する力を身につけている。

大学の授業ではさまざまな知識・技能・態度を獲得します。これらを総合的に活用し、さらに自由な発想の下で独自に工夫・応用して新たな知見を創造することにより、仕事や研究の現場で自ら課題を設定し、その課題解決に向けて深く探求することができます。人間科学科目群では、さまざまな知識や技能を修得する中で、それらを総合的に活用し新たな知見を創造する力を学びます。特に人間科学科目群Bグループでは、 세미나形式での演習系科目も設けており、人文科学・社会科学・自然科学の各分野において課題を設定し探求する方法を修得する中で、これらの力を学びます。また、各学科・専攻により独自に科目を開講しており、これらの力を学びます。

現代社会において創造性ある人材は最も貴重な人材として評価されます。与えられた知識を吸収するだけでなく、これを応用して新たな知見を創造するためのスキルを身につけます。

α2 高い倫理性と確かな教養、経営またはスポーツの分野に関する専門知識に基づいて問題提起ができ、課題解決につながる分析や考察が的確にできる力を身につけている。

現代社会において企業の発展やチームの向上において、高い倫理観を含む創造性のある人材は最も貴重な人材として評価及び必要とされます。与えられた知識を吸収するだけでなく、これを応用して新たな知見を創造するためのスキルを身につけます。

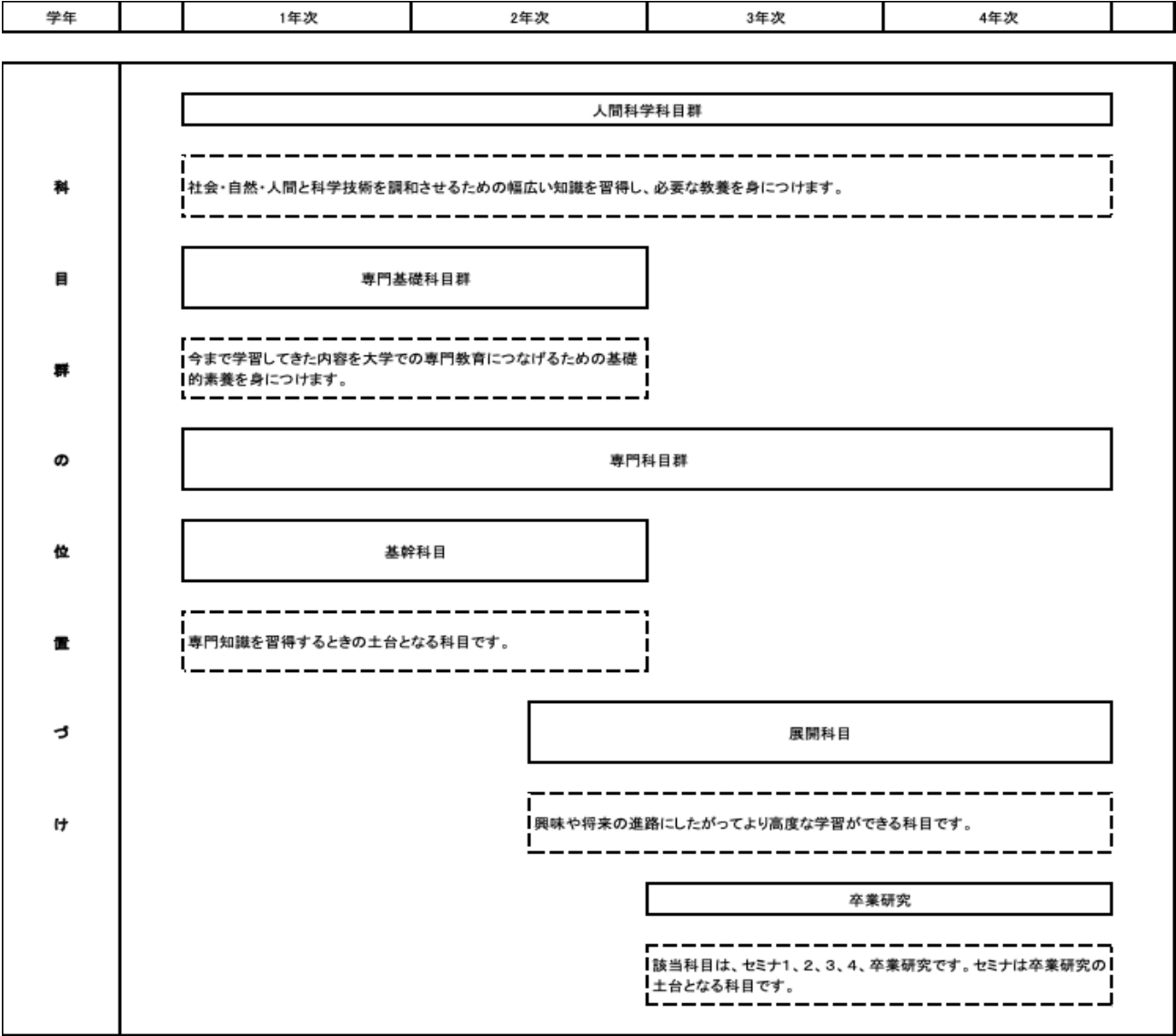
6. 教育課程

第5章で説明した学位授与の方針は、4年間で身につけることが必要な知識や能力を示したものです。これを獲得するための学修の達成に必要な授業科目が記されたものが教育課程です。

本学の教育課程は、授業科目を順次的・体系的に配置したうえで、①授業科目の順次性・体系性と学位授与の方針との関係性を説明するためのカリキュラム・フローチャートとカリキュラムマップが準備され、②授業科目ごとに学修到達目標を定め、さらに、③皆さんが進みたい進路の参考とするため、履修モデルも準備されています。

図ー1は、教育課程の概念図をまとめたものです。教育課程は、人間科学科目群、専門基礎科目群、および専門科目群の3つの群に分類されています。それぞれの授業科目の教育内容については 6.1～6.3 で説明します。6.4 では卒業後の進路等に対応させて、教育課程の授業科目をどのように学修していくかという履修モデルを例示します。各授業科目で何を学んで、どんな知識を修得するかは、6.5で紹介するカリキュラムマップにおける学修到達目標に具体的にまとめています。

なお、教育課程を構成しているそれぞれの授業科目の具体的な開講期と単位数などを示したものは、別に示す「開講科目一覧」に表しています。



図ー１ 総合情報学科の教育課程の構成概念図

6. 1 人間科学科目群

a 人間科学科目群 Aグループ

①ファースト・イヤー・セミナ

ファースト・イヤー・セミナ (First Year Seminar、略して FYS、初年次セミナ) とは、新入生である皆さん方全員に、今後 4 年間の大学教育に不可欠な「学習技法 (スタディ・スキルズ)」を習得してもらう科目です。いわば「大学での学び方」を学ぶ授業科目です。

実は、皆さんが高校まで普通だと思ってきた勉強の仕方と、大学での学びの方法はずいぶん違うところがあるのです。この方法の違いを理解した上で、「大学での学び方」に早く習熟し、積極的に大学の授業に参加してほしいのです。この点はとても大切です。大学での授業に戸惑ったり、どうにも積極的に参加できなかったり、せっかく勉学に打ち込んでもそれが空回りに終わって、4 年たっても実を結ばない、こうしたことの原因の一半には、大学での学び方 (つまり知的レベルをステップアップする方法) のベースができていないことが大きく関わっていることが分かっています。

この授業は次のように 5 つのパートでできています。

- I 大学で学ぶとはどういうことか
- II 効果的な授業の聴き方、効率的なノートのとり方、テキストの的確な読み方
- III 知的収蔵庫である大学図書館の利用法
- IV 文章の書き方の基本、レポート作成のルール、およびその実践
- V 効果的なプレゼンテーションのさまざまな方法とその実践

この授業の第一のねらいは、「大学での学び方」を習得してもらうことで、皆さんが本学の教育にスムーズに適応できること、言いかえると皆さんが手応えをもって大学生活を送ることができるよう手助けをするところにあります。しかしそれだけではありません。皆さんが社会に出、職業人として、あるいは市民として、豊かに生きていこうとすると、自己表現スキルや、他者とのコミュニケーション・スキルの必要性をきつと感じることでしょう。それらを可能にするのも、この授業が基盤となります。そうした最低限の知的技法もここには盛り込まれています。

こうした事項について、少人数クラスで初歩からみっちりと学んでもらいます。皆さんはこの授業において、何より自分の知的ステップアップを信じて、全力でこれに応えねばなりません。

②外国語科目

<英語スキル1・2、資格英語、実践英語、英語ライティング、英語プレゼンテーション、中国語入門1・2>

外国語を学習することには2つの重要な事項があります。第1はコミュニケーションの手段としての言語能力の習得です。グローバル化の著しい今日においては外国語、特に英語によるコミュニケーション能力は21世紀を生きる上で不可欠となります。第2はその言語の背景にある文化や思考を学ぶことです。言語の背景にある文化やものの考え方を理解することなく言語を学ぶだけでは思わぬ誤解やトラブルに巻き込まれることにもなりかねません。技術者にとっても外国語の能力の習得はますます重要になってきています。

そのような外国語の学習には基礎的な事項の反復学習が大切になります。大変に思うかもしれませんが、外国語学習というのは努力をすればするほど成果も見込めるのです。本学では、1年次に「英語スキル1・2」、2年次前期に「資格英語」を必修科目として開講しています。また、2年次後期に「実践英語」を選択科目として開講しています。さらに、3年次でも外国語科目を学びたい人のために「英語ライティング」、「英語プレゼンテーション」という選択科目を開講しています。英語以外の外国語として、中国語の基礎を学びたい学生は、1年次に「中国語入門1・2」を選択科目として開講しています。

③健康科学科目<スポーツ実技A・B、スポーツと健康の科学A・B>

大学におけるスポーツ実技A・Bは、1年次にA、Bを配当しています。週1回の実技を通してスポーツの技術およびその楽しさを学ぶことで、学生諸君が将来（生涯スポーツとして）も運動を継続して行えるような素地を身につけ、スポーツを通じて集団を意識し、社会に対する適応力を向上させることを目的としています。

スポーツと健康の科学A・Bは3年次に配当しており、スポーツ科学および健康の維持増進に関する講義を行います。スポーツや身体の仕組みについて学び、各個人がより健康に生活できるような知識と態度を身につける事を目的としています。

④基礎英語 세미나

基礎英語セミナーでは、基本的な英単語を習得することと、習得した英単語を文脈のなかで正しく理解することを目標にします。一目ですぐに認識できる語彙を多量に獲得することは、英語を読んだり、書いたりするうえで大きな力となるだけでなく、英語を聞いたり、話したりするうえで不可欠な力となってきます。英語による学術的探求とコミュニケーションの礎になる力が、十分な練習を通して養成されることになります。なお、3年次修了までにこの科目を修得できなかった場合には、4年間で卒業することができなくなります。

⑤DX(デジタルトランスフォーメーション)科目<情報リテラシー概論・データサイエンス概論>

現在、日本政府は、未来社会の姿として掲げている「Society 5.0」と呼ばれる社会構想を推進することで「超スマート社会」を実現することを目指しています。

超スマート社会で活躍するであろう皆さんにとっては、大学で学修する分野によらず、データサイエンスや人工知能（AI）を理解して、適切に活用する力をつけることが重要です。

データサイエンスやAIは今後のデジタル時代のよみ・かき・そろばんと言われており、すべての社会人が正しい使い方を身につける必要があります。

本学では、この内容を修得するため、1年生前期に「情報リテラシー概論」が、また1年生後期に「データサイエンス概論」が、すべての学科・専攻において必修科目として設置されています。

どちらの科目ともオンデマンド形式の遠隔授業として開講されます。

各自のノート PC 等を利用して都合のよい時間に学修し、設定された課題を指定された期日までに提出してください。

なお、この二科目は文部科学省により実施されている「データサイエンス教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」に準拠した学修内容になっています。

・情報リテラシー概論

超スマート社会で活躍するためには、PC・スマートフォンなどの情報機器や、それらで得られる情報を適切に効率よく利用できるようになることが重要です。

本講義では、様々な情報サービスを適切に効率よく利用するための方法について説明します。

特に、本学で利用できる各種サービスについて説明します。

今後の活動で必要となるグループでの情報共有やコミュニケーション、情報の共有方法など、情報通信技術の基礎的な使用方法を確立してください。

・データサイエンス概論

卒業後に自分が活躍したい業界・業種に関わらず、今後の社会ではデータサイエンスやAIを理解することは重要です。

本講義では、数理・データサイエンス・AIに関する基礎的な能力を身につけることを目的としています。データやAIが社会にどう関わっているかを理解して、それらを活用するための方法について学修します。

b. 人間科学科目群Bグループ

大同大学の教育課程（カリキュラム）は、三つの科目群に支えられています。一つは各学科・専攻でおもに学ぶ専門科目群、他の二つは専門基礎科目群とここで説明する人間科学科目群です。人間科学科目群はファースト・イヤー・ 세미나と語学、体育の実技を含むAグループと、講義科目であるBグループから成り立っています。

人間科学科目群Bグループは、「人間・歴史文化・こころの理解」（人文科学分野、10科目）、「国際情勢と社会のしくみ」（社会科学分野、12科目）、「科学的なものの見方」（自然科学分野、12科目）、「学問への複眼的アプローチ」（学際的分野および演習、5科目）の4つのカテゴリーから構成されており、現代のリベラルアーツ教育において求められる多様かつ幅広い分野の科目を提供しています。これらに加え、より深く学びたいとの高い意欲をもつ学生に向けて、ゼミナール（小集団演習）形式の「課題探究セミナーA」、「課題探究セミナーB」を開講しています。

これらの講義系と演習系の科目はすべて、皆さんに多様な知的刺激を与えることができるように工夫されたものばかりです。そのねらいは、トータルな人間教育にほかなりません。言いかえると、皆さんが今をタフに生き、将来を担う一市民としての教養を身につけ、それに磨きをかけること、これが本科目群の目指すところです。

大学での専門教育はもちろん重要です。しかしそれを世の中に役立てながらも、一人ひとりが社会の中で豊かな人生を創出していくためには「教養」が欠かせません。本学では「教養」として、とくに「コミュニケーション力」、「自ら考える力」とそれと「協働力」に重点を置いています。こうした点で皆さんが自分らしさを発揮できるよう、Bグループにはさまざまな授業を取りそろえています。できるだけ偏りを作らず履修し、修得することが望まれます。

現在、私たちは歴史的転換期に身を置いています。日本でも世界でも、世の中は目まぐるしく変化し続けています。良いことも好ましくないことも瞬時に地球規模で拡散し、われわれはグローバル社会の一員であることを余儀なくされています。とくに日本は超高齢化社会に突入し、不透明で不確実な時代に入りつつあります。

それでも世界は飽くなきマネーフローと途轍もないテクノロジーの進化を介して緊密に結びつくと同時に、アメリカ南北大陸圏、アジア圏、欧州、東欧およびロシア圏、アフリカ中東圏などで生じるローカルな歪みが、即座に世界各国に対し甚大な政治的・経済的影響をもたらします。さらに今後はAI（人工知能）やIoT（モノのインターネット）に代表される技術革新によって人間の働き方が様変わりするばかりか、われわれの想像力をはるかに超える近未来社会が待ち受けています。世界がより便利に、より快適な生活を享受できるようになることは好ましいですが、日本の社会を見ても逆に格差社会などが一部現実のものとなりつつあるのは見逃せません。

そこで皆さんに具体的に求められるのは、こうした時代を生き抜いていくための知恵や活力を自ら引き出し伸ばしていくことです。そのためには今を知り、そこから課題を見つけ出し、いろいろな角度から考え、そして解決策を自分であるいは仲間と協働しながら探り当てていく知とパワーが不可欠です。そして何よりも一人ひとりが自分の人生を存分に味わい、楽しめる力を発揮することが求められます。

大学では、人間と社会をよく知るためにも、人文・社会科学の学問分野の知見や見識が大切な役割を果たします。人文科学分野では、文学、哲学、歴史学、人類学、心理学が人間の営みや心の働きを扱い、社会科学分野では法学、経済学、政治学、社会学、社会調査法、現代社会論、課題探究集中講座が社会の仕組みから国際情勢の展望にまで皆さんを誘います。

また自然科学のアプローチから宇宙、地球、生命、身体そのものを知ることに加えて、われわれの生活環境や健康を見直す諸科目も開講されています。自然科学概論、環境と防災、地球科学、認知科学、生物学、健康科学の諸科目が、有益性と危険性をあわせ持つ科学技術、人間が生きる舞台としての地球環境、またヒトとしての人間、人間の心身・健康に焦点を当てています。

2年次、3年次には、「課題探究 세미나」として、アクティブ・ラーニングやPBL（問題・課題解決型授業）を意識した少人数科目を開講しています。

大学での勉学は、確かに与えられたものを繰り返し習い覚える地道な作業と同時に、何が問題でその解決のためにはどう向き合えばよいのかについて自分自身で考え、仲間と語り合い、行動をおこすところに醍醐味があります。

皆さんにとって、人間科学科目群Bグループがその糸口となることを願っています。

6.2 専門基礎科目群

専門基礎科目群は、今まで学習してきた内容を大学での専門教育につなげるための基礎的素養を身につける授業科目で、1年次および2年次に開講されます。

科目において学ぶ内容や修得する内容については、後述するカリキュラムマップに記載されています。また、どの学期にどのような科目を履修できるかについては、履修モデルを参照してください。

・専門基礎科目群の授業科目(計14科目)

今まで学習してきた内容を大学での専門教育につなげるための基礎的素養を身につける授業科目で、1年次と2年次に開講される科目です。

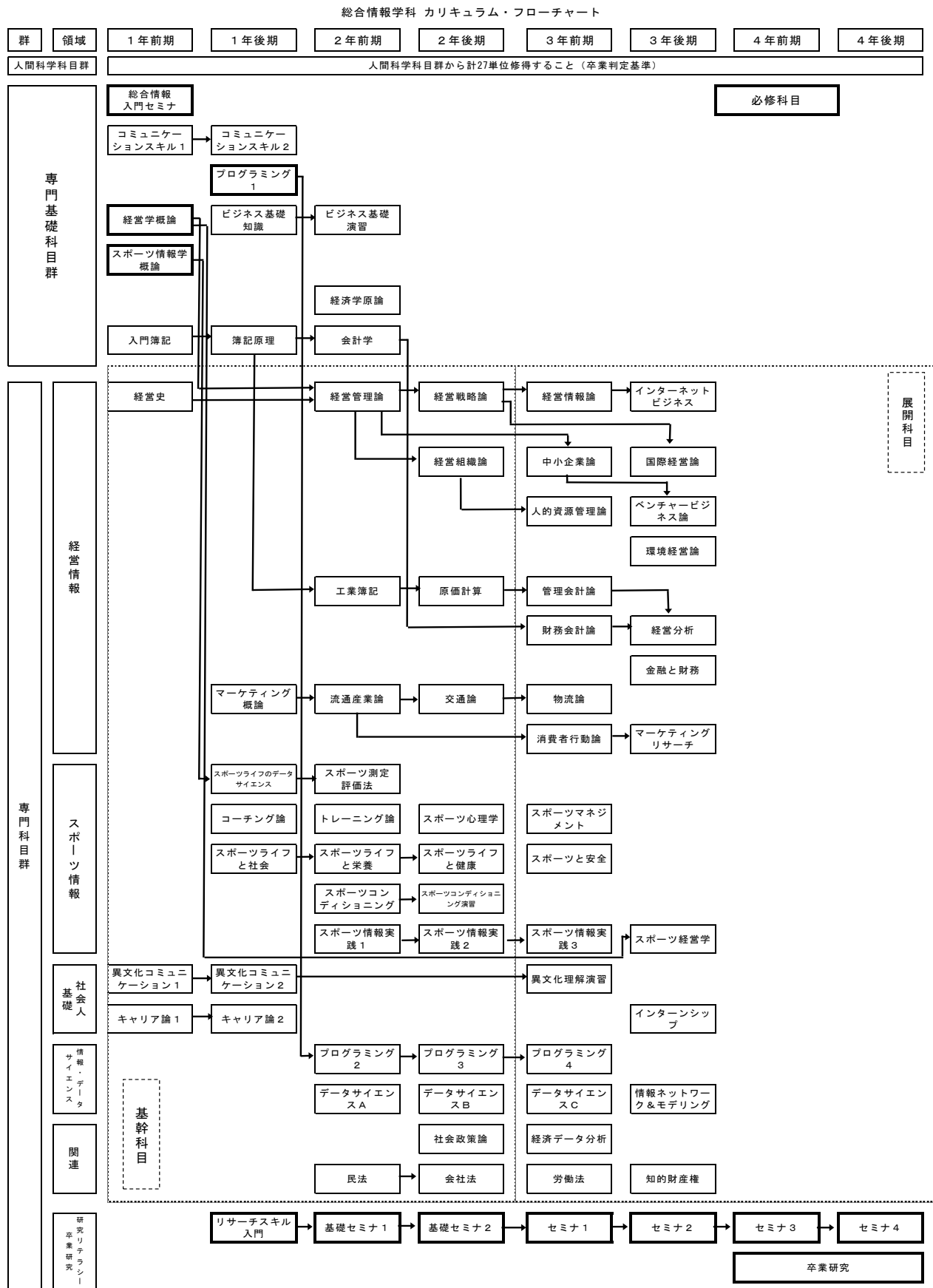
総合情報入門セミナー、コミュニケーションスキル1、コミュニケーションスキル2、プログラミング1、経営学概論、経済学原論、スポーツ情報科学概論、入門簿記、簿記原理、会計学、ビジネス基礎知識、ビジネス基礎演習、キャリア論1、キャリア論2

6.3 専門科目群(カリキュラムフローチャート)

専門分野である専門科目群の授業科目は、基幹科目、展開科目、卒業研究から構成されており、基幹科目は1年次および2年次に、展開科目は3年次から4年次に、セミナー1～セミナー4と卒業研究は3年次および4年次に開講されます。「基幹科目」とは、専門科目の中でも根幹となる科目であり、専門知識を修得するための土台となる科目です。また、「展開科目」とは、各人の興味や将来の進路を踏まえ、自身が希望する分野の高度な

学習を行う科目です。卒業研究は4年間の学習の集大成の科目であり、ここでは論文を作成します。

各科目において学ぶ内容や修得する内容については、後述するカリキュラムマップに記載されています。また、どの学期にどのような科目を履修できるかについては、履修モデルを参照してください。



図ー2 専門科目群のカリキュラム・フローチャート

(1) 基幹科目

多くの基幹科目は、専門基礎科目群を学習した後、1年次の後期および2年次に設定されています。基幹科目のうち、専門科目群の5つの柱となるカテゴリーに該当する科目は以下の通りです。

- ・経営情報領域

経営史、経営管理論、経営組織論、経営戦略論、工業簿記、原価計算、マーケティング概論、流通産業論、交通論

- ・スポーツ情報領域

スポーツライフのデータサイエンス、スポーツ測定評価法、コーチング論、トレーニング論、スポーツ心理学、スポーツライフと社会、スポーツライフと栄養、スポーツライフと健康、スポーツコンディショニング、スポーツコンディショニング演習、スポーツ情報実践1、スポーツ情報実践2

- ・社会人基礎領域

異文化コミュニケーション1、異文化コミュニケーション2、キャリア論1、キャリア論2

- ・情報・データサイエンス領域

プログラミング2、プログラミング3、データサイエンスA、データサイエンスB

- ・関連領域

社会政策論、民法、会社法

(2) 展開科目

基幹科目で学習した内容を基に、3年次から4年次に掛けて開講される展開科目では、専門科目の発展的な内容を修得します。展開科目のうち、専門科目群の5つの柱となるカテゴリーに該当する科目は以下の通りです。

- ・経営情報領域

経営情報論、インターネットビジネス、中小企業論、国際経営論、人的資源管理論、ベンチャービジネス論、環境経営論、管理会計論、財務会計論、経営分析、金融と財務、物流論、消費者行動論、マーケティングリサーチ

- ・スポーツ情報領域

スポーツマネジメント、スポーツと安全、スポーツ情報実践3、スポーツ経営学

- ・社会人基礎領域

異文化理解演習、インターンシップ

- ・情報・データサイエンス部門

プログラミング4、情報ネットワーク&モデリング、データサイエンスC

- ・関連領域

経済データ分析、労働法、知的財産権

(3) 研究リテラシー

研究リテラシー科目は、リサーチスキル入門、基礎セミナ1、基礎セミナ2から構成されており、これら科目において、課題研究に必要な知識やスキルを習得します。

(4) 卒業研究

卒業研究は、セミナ1、セミナ2、セミナ3、セミナ4および卒業研究から構成されており、これらの科目においては、各自が研究課題を設定し、その研究を行います。卒業研究は論文としてまとめ、最後に研究内容の発表を行います。

6.4 履修モデル

総合情報学科では、「1. 学科の目的」および「2. 教育の目的と学位授与の方針」で述べた人材を育成するために5つの履修モデルを用意しています。それぞれのモデルにて推奨する科目を図に示します。経営情報分野では「マネジメント」「アカウンティング・ファイナンス」「マーケティング・ロジスティクス」の3つの履修モデル、スポーツ情報分野では「スポーツマネジメント」「コーチング」の2つの履修モデルがあります。この科目の並びを示した履修モデルは2年次よりそれぞれ2分野に分かれて専門に取り組み、将来を見据えてそれぞれの目標に従って、基本的には履修モデルに沿った形での履修をすることを推奨します。

(1) 経営（マネジメント）

経営資源（ヒト、モノ、カネ、情報）の管理や経営戦略に関する理論や実践的知識を中心に学ぶ履修モデルです。民間企業の企画・管理業務（経営企画、総務、人事）や公務員など公的機関で活躍できる人材の育成を目標としています。

総合情報学科 履修モデル 経営（マネジメント）

群	領域	1 年前期	1 年後期	2 年前期	2 年後期	3 年前期	3 年後期	4 年前期	4 年後期	
人間科学科目群		人間科学科目群：27単位								
専門基礎科目群		総合情報入門セミナー						必修科目		
		コミュニケーションスキル1	コミュニケーションスキル2							
			プログラミング1							
		経営学概論	ビジネス基礎知識	ビジネス基礎演習						
		スポーツ情報学概論								
		入門簿記	簿記原理	会計学						
専門科目群	経営情報	経営史		経営管理論	経営戦略論	経営情報論	インターネットビジネス		展開科目	
					経営組織論	中小企業論	国際経営論			
						人的資源管理論	ベンチャービジネス論			
							環境経営論			
				工業簿記	原価計算	管理会計論				
					財務会計論	経営分析				
	社会人基礎	マーケティング概論	流通産業論							
		異文化コミュニケーション1	異文化コミュニケーション2			異文化理解演習				
		キャリア論1	キャリア論2				インターンシップ			
	情報・データサイエンス関連	基幹科目		プログラミング2	プログラミング3	プログラミング4	情報ネットワーク&モデリング			
				データサイエンスA	データサイエンスB	データサイエンスC				
				民法	会社法	労働法	知的財産権			
	卒業研究		リサーチスキル入門	基礎セミナー1	基礎セミナー2	セミナー1	セミナー2	セミナー3	セミナー4	
										卒業研究

(2) 経営（アカウンティング・ファイナンス）

経営資源のうち、お金の管理に関する理論や実践的知識を中心に学ぶ履修モデルです。民間企業の経理・財務業務、金融機関（銀行・証券・保険会社）の管理業務・事務において活躍できる人材の育成を目標としています。

総合情報学科 履修モデル 経営（アカウンティング・ファイナンス）										
群	領域	1 年前期	1 年後期	2 年前期	2 年後期	3 年前期	3 年後期	4 年前期	4 年後期	
人間科学科目群		人間科学科目群：27単位								
専門基礎科目群		総合情報 入門 세미나						必修科目		
		コミュニケーションスキル1	コミュニケーションスキル2							
			プログラミング 1							
		経営学概論	ビジネス基礎 知識	ビジネス基礎 演習						
		スポーツ情報学 概論								
				経済学原論						
		入門簿記	簿記原理	会計学						
	専門科目群	経営情報	経営史		経営管理論	経営戦略論	経営情報論			展開 科目
					経営組織論	中小企業論	国際経営論			
						人的資源管理論				
							環境経営論			
				工業簿記	原価計算	管理会計論				
						財務会計論	経営分析			
							金融と財務			
基礎 社会人		マーケティング 概論	流通産業論							
		異文化コミュニケーション1	異文化コミュニケーション2			異文化理解演習				
		キャリア論1	キャリア論2				インターン シップ			
		基幹 科目			プログラミング 2	プログラミング 3	プログラミング 4	情報ネットワー ク&モデリング		
					データ サイエンスA	データ サイエンスB	データ サイエンスC			
						社会政策論	経済データ分析			
					民法	会社法				
		情報・ サイエ ンス								
			関連							
研究 卒業 研究		リサーチスキル 入門	基礎セミナー1	基礎セミナー2	セミナー1	セミナー2	セミナー3	セミナー4		
							卒業研究			

(3) 経営（マーケティング・ロジスティクス）

販売や消費者行動に関する理論や流通の仕組みを中心に学ぶ履修モデルです。小売業やサービス業で活躍できる人材、民間企業の営業・商品開発・広告業務で活躍できる人材の育成を目標としています。

総合情報学科 履修モデル 経営（マーケティング・ロジスティクス）

群		領域		1 年前期		1 年後期		2 年前期		2 年後期		3 年前期		3 年後期		4 年前期		4 年後期					
人間科学科目群				人間科学科目群：27単位																			
専門基礎科目群				総合情報 入門セミナー																必修科目			
				コミュニケーションスキル1		コミュニケーションスキル2																	
				プログラミング1																			
				経営学概論		ビジネス基礎知識		ビジネス基礎演習															
				スポーツ情報学概論																			
						経済学原論																	
				入門簿記		簿記原理		会計学															
専門科目群				経営史		経営管理論		経営戦略論		経営情報論		インターネットビジネス		展開科目									
								経営組織論		中小企業論		国際経営論											
										人的資源管理論		ベンチャービジネス論											
												環境経営論											
				マーケティング概論		流通産業論		交通論		物流論		消費者行動論		マーケティングリサーチ									
				異文化コミュニケーション1		異文化コミュニケーション2				異文化理解演習													
				キャリア論1		キャリア論2						インターンシップ											
				基幹科目				プログラミング2		プログラミング3		プログラミング4		情報ネットワーク&モデリング									
								データサイエンスA		データサイエンスB		データサイエンスC											
										社会政策論		経済データ分析											
								民法		会社法													
				卒業研究				リサーチスキル入門		基礎セミナー1		基礎セミナー2		セミナー1		セミナー2		セミナー3		セミナー4			
																						卒業研究	

(4) スポーツ（コーチング）

理論とデータに基づき、スポーツ競技やコーチングについて専門的かつ実践的学ぶ履修モデルです。課題解決能力を身に付けスポーツ場面のみならず地域や社会の発展に貢献できる人材の育成を目標としています。

総合情報学科 スポーツ（コーチング）									
群	領域	1 年前期	1 年後期	2 年前期	2 年後期	3 年前期	3 年後期	4 年前期	4 年後期
人間科学科目群		人間科学科目群から計27単位修得すること（卒業判定基準）							
専門基礎科目群		総合情報 入門セミナー					必修科目		
		コミュニケーションスキル1	コミュニケーションスキル2						
			プログラミング1						
		経営学概論	ビジネス基礎知識	ビジネス基礎演習					
		スポーツ情報学概論			経済学原論				
専門科目群	経営情報	経営史		経営管理論	経営戦略論	経営情報論	インターネットビジネス	展開科目	
					経営組織論	中小企業論	ベンチャービジネス論		
						人的資源管理論			
	スポーツ情報		マーケティング概論						基幹科目
			スポーツライフのデータサイエンス	スポーツ測定評価法					
			コーチング論	トレーニング論	スポーツ心理学	スポーツマネジメント			
			スポーツライフと社会	スポーツライフと栄養	スポーツライフと健康	スポーツと安全			
	社会人基礎	異文化コミュニケーション1	異文化コミュニケーション2						
		キャリア論1	キャリア論2						
	情報・データサイエンス			プログラミング2	プログラミング3			インターンシップ	
	関連			データサイエンスA	データサイエンスB				
	卒業研究		リサーチスキル入門	基礎セミナー1	基礎セミナー2	セミナー1	セミナー2	セミナー3	セミナー4

(5) スポーツ（マネジメント）

スポーツを通じて実社会における組織のマネジメントを中心に学ぶ履修モデルです。スポーツにおける理論と実践を通じて、スポーツビジネスや地域の豊かなスポーツライフの実現を担う人材の育成を目標としています。

総合情報学科 履修モデル スポーツ（スポーツマネジメント）									
群	領域	1 年前期	1 年後期	2 年前期	2 年後期	3 年前期	3 年後期	4 年前期	4 年後期
人間科学科目群		人間科学科目群から計27単位修得すること（卒業判定基準）							
専門基礎科目群		総合情報 入門セミナー						必修科目	
		コミュニケーションスキル1	コミュニケーションスキル2						
			プログラミング1						
		経営学概論	ビジネス基礎知識	ビジネス基礎演習					
		スポーツ情報学概論							
				経済学言論					
		入門簿記	簿記原理						
専門科目群	経営情報	経営史		経営管理論	経営戦略論	経営情報論	インターネットビジネス		展開科目
					経営組織論	中小企業論	ベンチャービジネス論		
	スポーツ情報		マーケティング概論	流通産業論					
			スポーツライフのデータサイエンス	スポーツ測定評価法			消費者行動論	マーケティングリサーチ	
			コーチング論	トレーニング論	スポーツ心理学	スポーツマネジメント			
			スポーツライフと社会	スポーツライフと栄養	スポーツライフと健康	スポーツと安全			
				スポーツコンディショニング	スポーツコンディショニング演習				
				スポーツ情報実践1	スポーツ情報実践2	スポーツ情報実践3	スポーツ経営学		
社会人基礎	異文化コミュニケーション1	異文化コミュニケーション2							
	キャリア論1	キャリア論2							
情報・データサイエンス			プログラミング2	プログラミング3					
			データサイエンスA	データサイエンスB					
関連									
研究リテラシー卒業研究									
		リサーチスキル入門	基礎セミナー1	基礎セミナー2	セミナー1	セミナー2	セミナー3	セミナー4	
									卒業研究

情報学部 総合情報学科 カリキュラムマップについて

カリキュラムマップとは、各科目を履修することにより、学生が何をできるようになるかという学修到達目標をあげ、それがどの学位授与の方針の達成につながるのかを示したものです。その見方を以下に説明します。

カリキュラム・マップでは、各授業科目の学修到達目標と学位授与の方針の関係の強さが数値的に示されています。ある学修到達目標を身につけることが、各学科専攻の定める全 12 項目の学位授与の方針のどの項目にどの程度関係するのかの強さを示す数値を貢献度といいます。一つの授業科目の全貢献度 100 をまず各学修到達目標に配分（縦方向）し、それぞれが関係する学位授与の方針に配分（横方向）しています。ひとつの学修到達目標が関係する学位授与の方針は複数になることもあります。

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位)			開講期	学修内容	学修到達目標	大学の学位授与の方針														
			必修	選択	自由				a			b			c					d			
									学科(専攻)の学位授与の方針														
									a 1	a 2	b 1	b 2	b 3	c 1	c 2	c 3	c 4	c 5	d 1	d 2	合 計		
人間科学科目群	Aグループ	ファースト・イヤー・セミナー	1		1 [2]	高校と大学の学びの違いが理解できる。	5	5											10				
						ノートの取り方が効果的にできる。	5	5											10				
						文章を読んで、概要・要点をまとめることができる。	5	5											10				
						図書館の利用法がわかる。	5	5											10				
						レポートの作成の必要手順が分かる。	5	5											10				
						基本的なレポートの作成ができる。	8	7								5			20				
						プレゼンテーションの基本スキルが理解できる。	5	5											10				
						プレゼンテーションの初歩的な実践ができる。	7	8								5			20				
						授業科目の貢献度	45	45	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0		100			
		英語スキル1	2		1 [2]	「英語スキル1」では、高等学校までの英語学習を踏まえた上で、1年次の前期には、英語で発信力を高める基礎指導に重点を置き、発信型の英語力の基礎を養成することを目的とする。そのために、基礎的な語彙の習得に関して、その語彙の意味がわかる受容語彙に留まらず、スピーキングやライティングにおいて使用できる基礎的な発信語彙の習得をはかるようにする。こうした語彙の習得を土台とし、英語の4技能であるリーディング、リスニング、ライティング、スピーキングに関して、その複数の技能を絡めた活動を通じて、4技能の基礎をバランスよく向上させることをねらいとする。	題材を読み取り、基礎的な読解方略を身に着け、内容を的確に理解することができる。	6	6								1			13			
						題材に関する大まかな内容を聞き取ることができる。	8	8									2			18			
						題材に関して、シャドーイング等の練習により英語を正しく発音をすることができる。	8	8									2			18			
						題材に関して、自分の意見や考えを簡単な英語で簡潔に記述することができる。	8	8									2			18			
						題材に関して、自分の意見を他者に簡単な英語である程度伝達することができる。	8	8									2			18			
						基礎的な英語の語彙の意味を習得し、正確に発音をすることができる。	7	7									1			15			
						授業科目の貢献度	45	45	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0		100			
		英語スキル2	2		2 [3]	「英語スキル2」では、「英語スキル1」で学んだことを踏まえて、1年次の後期でも、英語で発信力を高める指導に重点を置き、発信型の英語力を養成することを目的とする。そのために、語彙の習得に関して、その語彙の意味がわかる受容語彙に留まらず、スピーキングやライティングにおいて使用できる発信語彙の習得をはかることに重点をおく。こうした語彙の習得を土台とし、英語の4技能であるリーディング、リスニング、ライティング、スピーキングに関して、その複数の技能を絡め、それらが相乗効果をもたらす活動を通じて、4技能のさらなる向上をはかることをねらいとする。	題材を読み取り、基礎的な読解方略を身に着け、内容をよりの確に理解することができる。	6	6								1			13			
						題材に関する内容を聞き取ることができる。	8	8									2			18			
						題材に関して、シャドーイング等の練習により英語を正しく、流暢に発音をすることができる。	8	8									2			18			
						題材に関して、自分の意見や考えを英語で簡潔に記述することができる。	8	8									2			18			
						題材に関して、自分の意見を他者に簡単な英語で伝達することができる。	8	8									2			18			
						英語の語彙の意味を習得し、より正確に発音をすることができる。	7	7									1			15			
						授業科目の貢献度	45	45	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0		100			
		資格英語	2		3 [4]	「資格英語」では、1年次における「英語スキル1」および「英語スキル2」による発信型の英語スキルを高める指導を踏まえ、2年次の前期においては、英語の資格試験TOEICにおける得点の向上をはかることを目的とする。TOEICにおける得点の向上をはかるために、リスニングおよびリーディングに関する学習方略を習得させることに重点を置くことにより、英文の基礎的な読解力および聴解力の向上をはかる。また、「英語スキル1」および「英語スキル2」における語彙指導を継続し、その語彙の意味がわかる受容語彙に留まらず、発信力を伴った英語の語彙の習得をはかることに努める。	TOEICで出題される基礎的な語彙の意味を理解できる。	9	9								2			20			
						TOEICの英文のリスニング練習を通じて、英文を聞き取る方法を身に着けることができる。	9	9									2			20			
						TOEICの英文のリーディング練習を通じて、英文を読み取る方法を身に着けることができる。	9	9									2			20			
						TOEICの英文のリスニングおよびリーディングの基礎となる英文法を理解できる。	9	9									2			20			
						TOEICの英文のリスニングおよびリーディングの土台となる基礎語彙が習得できる。	9	9									2			20			
						授業科目の貢献度	45	45	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0		100			
		実践英語	1		4	「実践英語」では、1年次の「英語スキル1」と「英語スキル2」、2年次の前期の「資格英語」の指導を踏まえ、英語の資格試験TOEICにおいて、さらなる高得点をとらせることを目的とする。TOEICで課される英文を読み進める学習方略および英語の聴き取りに関する学習方略を習得させることに重点を置き、英文の読解力および聴解力の一層の向上をはかる。1年次より継続した語彙指導に関しては、基礎的な語彙習得の確認をはかるとともに、より難易度の高い語彙については、その意味がわかる受容語彙の拡大をはかる指導を行う。	TOEICで出題される語彙の意味を理解できる。	9	9								2			20			
						TOEICの英文のリスニング練習を通じて、英文をより正確に聞き取る方法を身に着けることができる。	9	9									2			20			
						TOEICの英文のリーディング練習を通じて、英文をより正確に読み取る方法を身に着けることができる。	9	9									2			20			
						TOEICの英文のリスニングおよびリーディングの基礎となる英文法の知識を活用することができる。	9	9									2			20			
						TOEICの英文のリスニングおよびリーディングの土台となる語彙が習得できる。	9	9									2			20			
						授業科目の貢献度	45	45	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0		100			

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位)			開講期	学修内容	学修到達目標	大学の学位授与の方針														
			必修	選択	自由				a		b			c					d				
									学科(専攻)の学位授与の方針														
									a 1	a 2	b 1	b 2	b 3	c 1	c 2	c 3	c 4	c 5	d 1	d 2	合 計		
人間科学科目群	Aグループ	英語ライティング	1	5	「英語ライティング」では、1年次の「英語スキル1」および「英語スキル2」による英語の4技能の基礎力、2年次に学んだ「資格英語」における読解力および聴解力の向上を踏まえて、発信型の英語指導の一環として基礎的な英文の書き方の基礎を学ばせるとともに、与えられたテーマに関して、30分で100語程度の英文エッセイを記述できる英語のライティング力の養成をはかることを目的とする。また、作成した英文を他者に口頭で伝達する練習を行い、スピーキング力の向上をはかるとともに、英語のプレゼンテーションが実践できる基礎力も養う。	与えられたテーマに対して、深く考察し自分の意見を構築することができる。	9	9									2		20				
						パラグラフレベルのテキスト構成を組み立て方を理解することができる。	9	9									2		20				
						自身の意見をパラグラフレベルのテキスト構成に沿って英文を記述することができる。	9	9									2		20				
						自身の意見をパラグラフレベルのテキスト構成に沿って作成した英文を口頭で他者に伝達できる。	9	9									2		20				
						英語で初歩的で簡易なプレゼンテーションができる。	9	9									2		20				
						授業科目の貢献度	45	45	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	100				
		英語プレゼンテーション	1	6	「英語プレゼンテーション」では、3年次前期の「英語ライティング」を踏まえて、英語のライティングスキルの向上をはかりながら、英語によるプレゼンテーションを行う基礎的な技能を習得させることを目的とする。英語によるアカデミックプレゼンテーションの構成方法やそこで使用される英語表現を学ばせ、英語のプレゼンテーションを行う原稿作成を行い、構成方法や英語表現を実際に使えるように指導する。こうした作成した原稿を他者に伝達する練習を行い、最終的には、英語によるプレゼンテーションを実施してもらい、英語によるプレゼンテーション能力の養成をはかる。	プレゼンテーションでの与えられたテーマに対して、自身の意見を構築することができる。	9	9									2		20				
						英語でプレゼンテーションの簡易な原稿を記述することができる。	9	9									2		20				
						英語によるアカデミックプレゼンテーションの構成方法が理解できる。	9	9									2		20				
						英語によるアカデミックプレゼンテーションで使われるや英語表現を身に着けることができる。	9	9									2		20				
						英語で簡易なアカデミックプレゼンテーションができる。	9	9									2		20				
						授業科目の貢献度	45	45	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	100				
	中国語入門1	1	1	「中国語入門1」では、はじめて外国語としての中国語を学ぶ学生を対象として、基礎的な中国語の理解をはかることを目的とする。この授業では、中国語の基礎となる発音を身に着けるせることに重点を置き、その後、基礎的な文法を学ばせ、簡易な会話練習を行ったり、読解力の養成につとめる。このような学びを通じて、中国語学習の入門から初期段階に至るまでに中国語の全体像を学習者が把握できるように指導する。また、中国の文化に触れる機会を授業内にもうけ、国際的な視野を養成することも目指す。	中国語の初歩的な発音を身に着けることができる。	9	9									2		20					
					中国語の初歩的な文法を理解できる。	9	9									2		20					
					中国語できわめて初歩的な会話ができる。	9	9									2		20					
					中国語の初歩的な読解力を身に着けることができる。	9	9									2		20					
					中国の文化への関心を高め、国際的な視野の基礎を身に着けることができる。	9	9									2		20					
					授業科目の貢献度	45	45	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	100					
	中国語入門2	1	2	「中国語入門2」では、「中国語入門1」を踏まえて、中国語への理解がより一層深まることを目的とする。この授業では、中国語の発音を身に着けるせることに重点を置き、さらに、語彙力を高める指導を行う。その後、基礎的な文法を学ばせ、会話練習を行ったり、読解力の養成につとめる。このような学びを通じて、中国語学習の入門から初期段階に至るまでに中国語の全体像を学習者が把握できるように指導する。また、中国の文化に触れる機会を授業内にもうけ、国際的な視野を養成することも目指す。	中国語の基礎的な発音を身に着けることができる。	9	9									2		20					
					中国語の基礎的な文法を理解できる。	9	9									2		20					
					中国語で基礎的な会話ができる。	9	9									2		20					
					中国語の基礎的な読解力を身に着けることができる。	9	9									2		20					
					中国の文化への関心を高め、国際的な視野を身に着けることができる。	9	9									2		20					
					授業科目の貢献度	45	45	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	100					
	スポーツ実技A (卓球)	1	1	レクリエーションスポーツとして卓球の楽しさを体験しながら、健康づくりと共に競技スポーツとしての技術の深さを知り、生涯スポーツへつながるものとなるよう指導したい。	正確なグリップでラケットを握ることができる。	6	6												12				
					対人ラリーが20球続けられる。	7	7									2		16					
					フォアハンドロングによるラリーができる。	7	7									2		16					
					バックハンドによるショートのつなぎができる。	7	7									2		16					
					相手からのボールに対してコースを決めて返球できる。	6	6									2		14					
					目的の位置にサービスを打つことができる。	6	6									2		14					
					得点の数え方および審判ができる。	6	6											12					
					授業科目の貢献度	45	45	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	100					
					スポーツ実技A (バドミントン)	1	1	レクリエーションスポーツとしてバドミントンの楽しさを体験しながら、健康づくりと共に競技スポーツとしての技術の深さを知り、生涯スポーツへつながるものとなるよう指導したい。	正確なグリップでラケットを握ることが出来る。	6	6											12	
	オーバーヘッドストロークによるラリーが出来る。	7	7													2		16					
	アンダーハンドストロークが出来る。	7	7													2		16					
	ネットプレーによるつなぎが出来る。	7	7													2		16					
	スマッシュを打つ事が出来る。	6	6													2		14					
	目的の位置にサーブを打つ事が出来る。	6	6													2		14					
	得点の数え方および審判が出来る。	6	6															12					
	授業科目の貢献度	45	45	0					0	0	0	0	0	0	0	10	0	100					

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位)			開講期	学修内容	学修到達目標	大学の学位授与の方針															
			必修	選択	自由				a			b			c					d		合 計		
									学科(専攻)の学位授与の方針															
									a 1	a 2	b 1	b 2	b 3	c 1	c 2	c 3	c 4	c 5	d 1	d 2				
人間科学科目群	Aグループ	スポーツ実技A (硬式テニス)	1	1	レクリエーションスポーツとしてテニスの楽しさを体験しながら、健康づくりと共に競技スポーツとしての技術の深さを知り、生涯スポーツへつながるものとなるよう指導したい。	正確なグリップでラケットを握ることができる。	6	6											12					
						フォアハンドストロークによるラリーができる。	7	7									2			16				
						フォアハンドストロークを打つことができる。	7	7									2			16				
						フォアハンドボレーのつなぎ合いができる。	7	7									2			16				
						バックハンドボレーを打つことができる。	6	6									2			14				
						アンダーサーブを目的の位置に打つことができる。	6	6									2			14				
						得点の数え方および審判ができる。	6	6												12				
						授業科目の貢献度	45	45	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0		100				
						スポーツ実技A (サッカー・フットサル)	1	1	レクリエーションスポーツとしてサッカー・フットサルの楽しさを体験しながら、健康づくりと共に競技スポーツとしての技術の深さを知り、生涯スポーツへつながるものとなるよう指導したい。	正確な部位でボールを蹴ることができる。	6	6											12	
		インサイドキックでパスをすることができる。	7	7													2			16				
		インステップキックでパスをすることができる。	7	7													2			16				
		アウトサイドキックでパスをすることができる。	7	7													2			16				
		パスされたボールを止めることができる。	6	6													2			14				
		スローインをする事ができる。	6	6													2			14				
		得点の数え方および審判ができる。	6	6																12				
		授業科目の貢献度	45	45	0					0	0	0	0	0	0	0	10	0		100				
		スポーツ実技B (卓球)	1	2	レクリエーションスポーツとして卓球の楽しさを体験しながら、健康づくりと共に競技スポーツとしての技術の深さを知り、生涯スポーツへつながるものとなるよう指導したい。					正確なグリップでラケットを握ることができる。	6	6											12	
						対人ラリーが20球続けられる。	7	7									2			16				
						フォアハンドロングによるラリーができる。	7	7									2			16				
						バックハンドによるショートのつなぎができる。	7	7									2			16				
						相手からのボールに対してコースを決めて返球できる。	6	6									2			14				
						目的の位置にサービスを打つことができる。	6	6									2			14				
						得点の数え方および審判ができる。	6	6												12				
						授業科目の貢献度	45	45	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0		100				
	スポーツ実技B (バドミントン)					1	2	レクリエーションスポーツとしてバドミントンの楽しさを体験しながら、健康づくりと共に競技スポーツとしての技術の深さを知り、生涯スポーツへつながるものとなるよう指導したい。	正確なグリップでラケットを握ることが出来る。	6	6											12		
		オーバーヘッドストロークによるラリーが出来る。	7	7												2			16					
		アンダーハンドストロークが出来る。	7	7												2			16					
		ネットプレーによるつなぎが出来る。	7	7												2			16					
		スマッシュを打つ事が出来る。	6	6												2			14					
		目的の位置にサーブを打つ事が出来る。	6	6												2			14					
		得点の数え方および審判が出来る。	6	6															12					
		授業科目の貢献度	45	45	0				0	0	0	0	0	0	0	10	0		100					
		スポーツ実技B (硬式テニス)	1	2	レクリエーションスポーツとしてテニスの楽しさを体験しながら、健康づくりと共に競技スポーツとしての技術の深さを知り、生涯スポーツへつながるものとなるよう指導したい。				正確なグリップでラケットを握ることができる。	6	6											12		
	フォアハンドストロークによるラリーができる。					7	7									2			16					
	フォアハンドストロークを打つことができる。					7	7									2			16					
	フォアハンドボレーのつなぎ合いができる。					7	7									2			16					
	バックハンドボレーを打つことができる。					6	6									2			14					
	アンダーサーブを目的の位置に打つことができる。					6	6									2			14					
	得点の数え方および審判ができる。					6	6												12					
	授業科目の貢献度					45	45	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0		100					
	スポーツ実技B (サッカー・フットサル)					1	2	レクリエーションスポーツとしてサッカー・フットサルの楽しさを体験しながら、健康づくりと共に競技スポーツとしての技術の深さを知り、生涯スポーツへつながるものとなるよう指導したい。	正確な部位でボールを蹴ることができる。	6	6											12		
		インサイドキックでパスをすることができる。	7	7												2			16					
		インステップキックでパスをすることができる。	7	7												2			16					
		アウトサイドキックでパスをすることができる。	7	7												2			16					
		パスされたボールを止めることができる。	6	6												2			14					
		スローインをする事ができる。	6	6												2			14					
		得点の数え方および審判ができる。	6	6															12					
		授業科目の貢献度	45	45	0				0	0	0	0	0	0	0	10	0		100					

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位)			開講期	学修内容	学修到達目標	大学の学位授与の方針														
			必修	選択	自由				a		b			c					d				
									a 1	a 2	b 1	b 2	b 3	c 1	c 2	c 3	c 4	c 5	d 1	d 2	合 計		
																						学科(専攻)の学位授与の方針	
人間科学科目群	Aグループ	スポーツと健康の科学A	1		5	身体の仕組みについて理解できる。	5	5										10					
						運動による身体的反応について理解できる。	10	10											20				
						運動が健康に与える影響について理解できる。	10	10											20				
						運動を日常生活に取り入れる意義を説明できる。	10	10											20				
						運動を日常生活に取り入れる工夫ができる。	10	10									10		30				
						授業科目の貢献度	45	45	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	100				
		スポーツと健康の科学B	1	6	身体の仕組みについて理解できる。	5	5											10					
					運動による身体的反応について理解できる。	10	10											20					
					運動が健康に与える影響について理解できる。	10	10											20					
					運動を日常生活に取り入れる意義を説明できる。	10	10											20					
					運動を日常生活にとりいれる工夫ができる。	10	10									10		30					
					授業科目の貢献度	45	45	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	100					
	情報リテラシー概論	1	1	コミュニケーション・ツールを適切に使い分けができる。	5	5											10						
				文書作成ソフトを使用して、適切な構造の文書を作成することができる。	10	10									5		25						
				表計算ソフトを使用して、データを集計・加工・分析・可視化することができる。	10	10											20						
				プレゼンテーション・ソフトを使用して、統一的なプレゼンテーション資料を作成することができる。	10	10									5		25						
				クラウド・ストレージを適切に使用することができる。	5	5											10						
				インターネット等で得られるデータの著作権等に基づき適切に使用することができる。	5	5											10						
	データサイエンス	1	2	データ・AIの社会への関わりや活用について説明することができる。	10	10											20						
				データ・AIを利活用するための技術について説明することができる。	10	10											20						
				データ・AIの利活用に必要な数学や統計の基礎を理解している。	10	10											20						
				数学や統計の知識を活用してデータを理解し説明することができる。	15	15									10		40						
				授業科目の貢献度	45	45	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	100						
				Bグループ	文学A	2	1・3・5	活字や映像を通して文学作品の内容を理解することができる。			30										30		
文学作品を生み出した作家について、理解を深めることができる。			30														30						
文学作品が書かれた文化的な背景について、理解を深めることができる。			30														30						
自分の考え方との共通点や相違点を意識しながら文学作品を読解できる。															10		10						
授業科目の貢献度	0	0	90					0	0	0	0	0	0	0	10	0	100						
文学B	2	2・4・6	活字や映像を通して文学作品のテーマを理解することができる。							30										30			
			文学作品を生み出した作家の思想や伝記について、理解を深めることができる。				30										30						
			文学作品が書かれた文化的な背景について、現代の文化との共通点や相違点を理解することができる。				30										30						
			文学作品の読解を通して自分の考え方を客観的に見直すことができる。												10		10						
			授業科目の貢献度		0	0	90	0	0	0	0	0	0	0	10	0	100						
			哲学A		2	1・3・5	プラトン哲学におけるイデア論、デカルト哲学におけるコギトの意義について説明できる。			30										30			
啓蒙思想の諸相とその功罪について説明できる。							30										30						
西欧近代の日本における受容の特質について説明できる。				30												30							
哲学の学習を通じて、知的リフレッシュメントを味わうことができる。														10		10							
授業科目の貢献度	0	0		90			0	0	0	0	0	0	0	10	0	100							

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位)			開講期	学修内容	学修到達目標	大学の学位授与の方針														
			必修	選択	自由				a		b			c					d				
									a 1	a 2	b 1	b 2	b 3	c 1	c 2	c 3	c 4	c 5	d 1	d 2	合 計		
																						学科(専攻)の学位授与の方針	
人間科学科目群	Bグループ	哲学B	2	2・4・6	哲学におけるモラルと道徳の成り立ちについてその系譜を辿り、生き方を考える。	哲学の学問的意義を理解し、さまざまな日常的テーマについて哲学的考察を示すことができる。			30										30				
						「人間力」を測るものさしを複数もつことができる。			30											30			
						倫理思想の大まかな流れについて理解することができる。			30											30			
						自分の人生について、哲学的な指針を持つことができる。											10			10			
						授業科目の貢献度	0	0	90	0	0	0	0	0	0	0	10	0		100			
						人類学A	2	3・5	さまざまな文化へのアプローチを学ぶとともに、現代社会の課題について考察する。	形のないものの価値について説明することができる。			30										
		様々な文化を比較しつつ説明することができる。			30															30			
		習慣の意味を説明する事ができる。			30															30			
		現代における人間像について様々な角度から考え、論じる事ができる。															10			10			
		授業科目の貢献度	0	0	90					0	0	0	0	0	0	0	10	0		100			
		人類学B	2	4・6	文化事象を歴史的に捉え、変化するものと変化しないものを区別する。					アイデンティティとは何かについて説明する事ができる。			30										
						文化についての様々な考え方を説明する事ができる。			30											30			
						通過儀礼の意味を説明する事ができる。			30											30			
						「変わっていくもの」と「変わらないもの」の意味を考え、論じる事が出来る。											10			10			
						授業科目の貢献度	0	0	90	0	0	0	0	0	0	0	10	0		100			
						歴史学A	2	1・3・5	歴史学の学習を通じて、現代に生きるわれわれが学ぶべき教訓を読み取る。	歴史学の魅力と学問分野としての特徴および思考方法を理解する。			30										
		授業で扱う対象(国、地域、人物)および歴史的事例についての基本的理解を得る。			30															30			
		現代の同時代的テーマについて、歴史的視点から考察することができる。			30															30			
		過去の事例から教訓をみつけ、これを現代社会においてどのように活かせるかを考える。															10			10			
		授業科目の貢献度	0	0	90					0	0	0	0	0	0	0	10	0		100			
		歴史学B	2	2・4・6	歴史学の学習を通じて、現代に生きるわれわれがもつ「常識」を相対化し、現代社会に関わるテーマを問い直す。					歴史学の魅力と学問分野としての特徴および思考方法を理解する。			30										
						授業で扱う対象(国、地域、人物)および歴史的事例についての基本的理解を得る。			30											30			
						現代的課題(政治・経済・文化その他)について、歴史学の視点から考察することができる。			30											30			
						過去の事例から教訓をみつけ、これを現代社会においてどのように活かせるかを考える。											10			10			
						授業科目の貢献度	0	0	90	0	0	0	0	0	0	0	0	0		100			
						心理学A	2	1・3・5	人間の心の働きと変化の様相を多角的に捉え、あらためて自分を知る。	感覚と知覚、感情、学習といった心理学の基本的なテーマについて、理解することができる。			30										
		発達という概念および発達過程について、理解することができる。			30															30			
		パーソナリティという概念について、理解することができる。			30															30			
		心理学の知識をもとに、自分自身や身近な出来事について、理解することができる。															10			10			
		授業科目の貢献度	0	0	90					0	0	0	0	0	0	0	10	0		100			
		心理学B	2	2・4・6	他者(たち)との関わり、社会での位置どりの観点から人間の行動・態度を捉えなおし、あらためて自分のあり方を考える。					自己に関する諸概念や社会的認知の特徴と機能について、理解することができる。			30										
						対人魅力や対人関係、対人コミュニケーションの特徴と機能について、理解することができる。			30											30			
						集団のもつ特徴や機能、および集団内での人間の行動について、理解することができる。			30											30			
						心理学の知識をもとに、自分自身や身近な出来事について、理解することができる。											10			10			
						授業科目の貢献度	0	0	90	0	0	0	0	0	0	0	10	0		100			
						教育原理	2	1	西洋における教育思想や近代公教育制度の成立とわが国への導入過程を理解し、教育理念の多様性と今日的な教育問題について歴史的背景・社会的状況と関連づけながら考える。	教育の目的について考え、多様な教育理念が思索・蓄積されてきたことを理解することができる。			30										
		近代公教育制度の成立について、歴史的背景を踏まえて理解することができる。			30															30			
		教育を成り立たせる要素についてそれぞれを関連づけながら理解することができる。			30															30			
		近年の教育課題や教育改革の動向を教育の歴史や社会的状況と関連づけながら理解することができる。															10			10			
		授業科目の貢献度	0	0	90					0	0	0	0	0	0	0	10	0		100			

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位)			開講期	学修内容	学修到達目標	大学の学位授与の方針														
									a		b			c					d				
			学科(専攻)の学位授与の方針																				
			a 1	a 2	b 1				b 2	b 3	c 1	c 2	c 3	c 4	c 5	d 1	d 2	合 計					
人間科学科目群	Bグループ	教育心理学	2	3	「教育」という営みをとおしてみえてくる人間の変化、他者・世界との関わりのあり様を捉えると同時に、それらから「教育」のあり方を考える。	「発達」とはどのようなことを理解し、各発達過程における特徴を把握することができる。			15										15				
						「青年期」の特徴を理解し、この時期特有の問題について心理学的な観点から考察することができる。			15											15			
						学習の基礎となる条件づけ、記憶の役割などを踏まえながら、基礎的な学習理論を理解することができる。			15											15			
						学習へのやる気を高めるために、動機づけ、学習意欲、無気力のメカニズムを理解することができる。			15											15			
						学校における現代的課題として、いじめ、不登校、発達障害などを取り上げて関連知識を身に付けるとともに、アプローチの仕方について考察することができる。			15											15			
						教育評価について、基本的な考え方と方法、評価資料収集の技法を理解することができる。			15												15		
						教師と生徒の望ましい人間関係を理解したうえで、教師の指導行動のあり方について考察することができる。											10				10		
						授業科目の貢献度	0	0	90	0	0	0	0	0	0	0	10	0			100		
		政治学A	2	1・3・5	政治学の基礎的な概念と理論を学ぶことを通じて、政治現象を的確に理解する力を身につけ、市民として現実政治とどのように関わっていくのかを考える。	政治学の基礎概念（政治、権力、国家など）を理解する。				30										30			
						自由民主主義の理論と政治制度について理解する。				30											30		
						政治制度の基本的枠組み（国会、内閣、選挙、政党、利益集団、地方自治など）を理解する。				30											30		
						自分と政治との関わりについて考えることができる。											10				10		
						授業科目の貢献度	0	0	0	90	0	0	0	0	0	0	10	0			100		
						政治学B	2	2・4・6	現代日本を含む世界の民主主義・非民主主義諸国の政治的動向について、政治学理論および制度と動態の視点から考察し、理解を深める。	政治制度の基本的枠組みと特質について理解する。				30									
		現代民主主義の理論的特徴について理解する。								30											30		
		現代民主主義の制度的特徴について理解する。								30											30		
		授業で扱った政治争点について理解し、多面的に考えることができる。															10				10		
		授業科目の貢献度	0	0	0					90	0	0	0	0	0	0	10	0			100		
		経済学A	2	1・3・5	経済学の基礎的な理論を学びつつ、現代社会における様々な現象とその背後にある経済のメカニズムを把握する。以上を通して、社会科学的な思考法を身に着ける。					経済学における基本的な用語や理論について説明することができる。				30									
						資本主義の意味と影響について説明することができる。				30											30		
						経済活動の役割とその限界を認識し、適切に活用することができる。				30											30		
						経済的・社会的な事象ををデータに基づいて論じることができる。												10				10	
						授業科目の貢献度	0	0	0	90	0	0	0	0	0	0	10	0			100		
						経済学B	2	2・4・6	現代社会の経済事情を取り扱いつつ、その背後にある歴史的経緯や構造を理解する。また、以上の作業を通じて、経済分析に必要な基礎的なスキルを身に着ける。	企業の特性・構造について説明できる。				30									
		日本の経済構造について、国際的視野を交えつつ説明することができる。								30											30		
		歴史上に起こった出来事が経済をどのように変えたのかを説明することができる。								30											30		
		経済的・社会的な事象ををデータに基づいて論じることができる。																10				10	
		授業科目の貢献度	0	0	0					0	0	0	0	0	0	0	10	0			100		
		法学A	2	3・5	法の成り立ちと、現代社会の諸事件を取り上げながら法的知識の基礎を修得する。					授業で扱う学説や判例を正確に理解できる。				30									
						授業で扱う学説や判例の可否を論理的に説明できる。				30											30		
						授業で得た知見を利用して、現実の政治問題や社会問題を論評できる。				30											30		
						日常生活での法的知識の重要性を理解し、説明できる。												10				10	
						授業科目の貢献度	0	0	0	90	0	0	0	0	0	0	10	0			100		
						法学B	2	4・6	日本国憲法とその特質について、実例・判例を通じて考察する。	日本国憲法の制定経緯および基本原則が説明できる。				30									
		国民主権、基本的人権、表現の自由の内容と意味を理解し説明できる。								30											30		
		違憲立法審査権の具体的事件を説明できる。								30											30		
		日常生活での法的知識の重要性を理解し、説明できる。																10				10	
		授業科目の貢献度	0	0	0					90	0	0	0	0	0	0	10	0			100		
		社会学A	2	1・3・5	社会科学および社会学の方法を学び、身近な社会現象への関心を培う。また、学んだ理論を人間関係や組織の分析に生かすことを目指す。					近代を背景に成立した社会学の特徴について説明できる。				30									
						社会と個人の関係について説明できる。				30											30		
						社会における不平等のあり方を、階級・階層という概念と結びつけて説明できる。				30											30		
						社会学の概念を用いながら社会関係のメカニズムを論じる事ができる。												10				10	
						授業科目の貢献度	0	0	0	90	0	0	0	0	0	0	10	0			100		

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位)			開講期	学修内容	学修到達目標	大学の学位授与の方針														
			必修	選択	自由				a		b			c					d				
									a 1	a 2	b 1	b 2	b 3	c 1	c 2	c 3	c 4	c 5	d 1	d 2	合 計		
																						学科 (専攻) の学位授与の方針	
人間科学科目群	Bグループ	社会学B	2	2・4・6	社会学が持つ分析手法（量的・質的）について、説明できる。				30								30						
					都市の特徴と都市社会学の歴史について説明できる。				30									30					
					社会学が持つ分析方法を学ぶ。また、異なった価値観・論理を持つ主体や社会の間に存在する関係性に着目し、理解することを目指す。				30									30					
					社会学の概念を用いながら社会変動のメカニズムを論じる事ができる。											10		10					
					授業科目の貢献度	0	0	0	90	0	0	0	0	0	0	10	0	100					
		社会調査法A	2	3・5	社会調査の目的とその種類（質的調査と量的調査）について理解する。				30									30					
					母集団及び標本抽出について理解する。				30									30					
					量的調査のための統計学の基本的知識（基礎統計量、クロス集計表、カイニ乗検定）について理解する。				30									30					
					先行研究を参考にしつつ、目的に応じた調査計画を構想することができる。											10		10					
					授業科目の貢献度	0	0	0	90	0	0	0	0	0	0	10	0	100					
		社会調査法B	2	4・6	社会調査の多様な方法とそれぞれの利点を理解する。				30									30					
					調査票作成の技法（ワーディングや尺度構成）を身につける。				30									30					
					社会調査の意義を理解するとともに、社会調査の実施（調査設計、データ収集、データ分析）に必要な知識を学ぶ。				30									30					
					授業で獲得した知識をもとに、社会調査の実施計画を立てることが出来る。											10		10					
					授業科目の貢献度	0	0	0	90	0	0	0	0	0	0	10	0	100					
		現代社会論A	2	3・5	授業で扱う国・地域・人物などについての基本的な情報を理解する。				30									30					
					担当者の専門分野からの学術的アプローチの面白さを理解する。				30									30					
					授業で学修した内容を踏まえ、その国・地域・人物に固有の特徴を文章で説明することができる。				30									30					
					授業で獲得した視野を通じ、これまでの自分が考えてきた常識を問い直すことができる。											10		10					
					授業科目の貢献度	0	0	0	90	0	0	0	0	0	0	10	0	100					
現代社会論B	2	4・6	授業で扱う国・地域・人物などのついでの基本的な情報を理解する				30									30							
			担当者の専門分野からの学術的アプローチの面白さを理解する				30									30							
			授業で学修した内容を踏まえ、その国・地域・人物に固有の特徴を文章で説明することができる				30									30							
			授業で獲得した視野を通じ、これまでの自分の認識を相対化し、新しい見方を獲得する。											10		10							
			授業科目の貢献度	0	0	0	90	0	0	0	0	0	0	10	0	100							
教育社会学	2	2	自己の教育経験・教育観を相対化し、種々の教育事象・教育問題を社会学的なものの見方によって考察することができる。				30									30							
			学校教育を支える法や制度について理解し、具体的な例をもとに説明することができる。				30									30							
			教育行政や学校経営の歴史およびその変容について理解し、説明することができる。				30									30							
			学校と保護者・地域との協働について具体的な事例をもとに説明することができる。											10		10							
			授業科目の貢献度	0	0	0	90	0	0	0	0	0	0	10	0	100							
健康科学A	2	1・3・5	疾病、外傷および外傷・傷害について理解できる。					30								30							
			ストレスおよびその対処法について理解できる。					30								30							
			身体の解剖学的構造、生理学的な仕組みを理解した上で、健康を維持・増進させる基礎的な知識を身につける。					30								30							
			生活習慣病について理解できる。					30								30							
			健康とはなにかを理解し、その維持増進ために自発的に取り組むことができる。											10		10							
授業科目の貢献度	0	0	0	0	90	0	0	0	0	0	0	10	0	100									
健康科学B	2	2・4・6	身体の動く仕組みと人体の構造について理解できる。					30								30							
			適切なトレーニング方法ついて理解することができる。					30								30							
			身体のケアについて理解することができる。					30								30							
			日常生活を通じて、身体についての理解と実践を結びつけて考えることができる。											10		10							
			授業科目の貢献度	0	0	0	0	90	0	0	0	0	0	0	10	0	100						

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位)			開講期	学修内容	学修到達目標	大学の学位授与の方針														
			必修	選択	自由				a		b			c					d				
									a 1	a 2	b 1	b 2	b 3	c 1	c 2	c 3	c 4	c 5	d 1	d 2	合 計		
																						学科 (専攻) の学位授与の方針	
人間科学科目群	Bグループ	認知科学 A	2	3・5	認知科学の基本、とくに知覚や記憶のメカニズムについて習得する。	情報処理アプローチに基づく認知科学の方法論を説明することができる。					30								30				
						知覚、記憶といった認知機能の仕組みや、神経機構について説明することができる。					30								30				
						ヒューマンエラーの原因について説明することができる。					30								30				
						認知科学の知見をふまえ、様々なテーマについて学際的に考えることができる。											10		10				
						授業科目の貢献度	0	0	0	0	90	0	0	0	0	0	10	0	100				
		認知科学 B	2	4・6	認知機能と人間の行動との関係について考察する。	認知科学という学問、および我々が行っている認知について、基本的かつ論理的な説明をすることができる。					30								30				
						記憶のメカニズムや分類、自覚できない心の働きとその影響について、説明することができる。					30								30				
						ヒューマンエラーが生じる理由や予防法について、論じることができる。					30								30				
						認知科学の知見をふまえ、様々なテーマについて学際的に考えることができる。											10		10				
						授業科目の貢献度	0	0	0	0	90	0	0	0	0	0	10	0	100				
		環境と防災 A	2	3・5	自然環境・社会環境に関わる知識を学びつつ、災害が発生し、被害が拡大するメカニズムを考察する。	自然環境・社会環境と災害の関係について説明できる。					30								30				
						災害と防災・減災の歴史について説明できる。					30								30				
						環境変動と災害の関係について説明できる。					30								30				
						学修内容を踏まえた上で、災害への備えとして自身が行うべきことをまとめる事ができる。											10		10				
						授業科目の貢献度	0	0	0	0	90	0	0	0	0	0	10	0	100				
		環境と防災 B	2	4・6	自然環境・社会環境に関わる知識を学びつつ、防災・減災の実践上持つておくべき基礎的な知識を修得する。	自然環境・社会環境と災害の関係について説明できる。					30								30				
						防災・減災に関連する情報を取得・分析する事ができる。					30								30				
						防災・減災について地域が直面する課題について説明できる。					30								30				
						学修内容を踏まえた上で、災害への備えとして自身が行うべきことをまとめる事ができる。											10		10				
						授業科目の貢献度	0	0	0	0	90	0	0	0	0	0	10	0	100				
		自然科学概論 A	2	1・3・5	物理学はすべての自然科学の土台にあたる学問である。身近な電気や熱をはじめ、現代物理学の基本を学びながら、科学技術と生活・社会との関係についても考える。	科学で扱える問題と扱えない問題を区別できる。					30								30				
						科学リテラシーの必要性を理解できる。					30								30				
						近代科学の特徴を説明し、20世紀初頭における自然認識の大転換を理解することができる。					30								30				
						科学・技術と社会との関係を主体的・批判的に考えることができる。											10		10				
						授業科目の貢献度	0	0	0	0	90	0	0	0	0	0	10	0	100				
		自然科学概論 B	2	2・4・6	化学は物質の本質、あり様、変化を探索する学問である。原子、電子をパーツとする物質の基本と多様性の概要を学習しながら、現代社会での科学技術における化学と関連分野の意味と役割を学習する。	物質の成り立ちの基本を理解できる。					30								30				
						物質科学の成立とその歴史の概要を説明できる。					30								30				
						現代社会における物質科学の役割と限界を説明できる。					30								30				
現代社会における物質科学とその応用としての技術の有用性と危険性を主体的・批判的に考え、人間社会との関わりの視点から将来を展望することができる。															10		10						
授業科目の貢献度	0					0	0	0	90	0	0	0	0	0	10	0	100						
生物学 A	2	3・5	生物学の基本を習得し、人間を生物として捉え、特別扱いしない視点を獲得する。	生物学の基礎概念と思考方法を理解することができる。					30								30						
				生物多様性や生物の進化のメカニズムについて説明することができる。					30								30						
				生物間のネットワークや環境の影響について説明することができる。					30								30						
				生物学の学習を通じて、自然と人間の関係性を考えることができる。											10		10						
				授業科目の貢献度	0	0	0	0	90	0	0	0	0	0	10	0	100						
生物学 B	2	4・6	生物学の基礎を習得し、生物の進化や環境との関係の視点から、自然と人間のかかわりを考える。	生物学の基礎概念と思考方法を理解することができる。					30								30						
				生物の進化史を大まかに説明することができる。					30								30						
				環境と生物の関係について説明することができる。					30								30						
				生物学の学習を通じて、自然と人間の関係性を考えることができる。											10		10						
				授業科目の貢献度	0	0	0	0	90	0	0	0	0	0	10	0	100						

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位)			開講期	学修内容	学修到達目標	大学の学位授与の方針												
			必修	選択	自由				a		b			c					d		合 計
									学科 (専攻) の学位授与の方針												
									a 1	a 2	b 1	b 2	b 3	c 1	c 2	c 3	c 4	c 5	d 1	d 2	
人間科学科目群	Bグループ	地球科学 A	2	3・5	地球科学の魅力とその基礎概念や方法を理解する。					30								30			
					地震、プレート運動、構成物質などを理解する。					30								30			
					地球の成り立ちを学び、地球科学の基礎概念を理解する。					30								30			
					授業で学んだ知識や概念を用いて、地球に関する基礎的考察ができる。										10		10				
					授業科目の貢献度	0	0	0	0	90	0	0	0	0	0	10	0	100			
		地球科学 B	2	4・6	天体観測についてその歴史と方法を理解する。					30								30			
					津波のメカニズムを理解し、わが国の天気図を読み解き、自然災害について考察する。					30								30			
					地球の運動のデータを使い、暦の原理を理解する。					30								30			
					授業で学んだ知識や概念を用いて、地球の未来像を考察することができる。										10		10				
					授業科目の貢献度	0	0	0	0	90	0	0	0	0	0	10	0	100			
		課題探究集中講座	2	集中講義9月	理工系・情報学系の学生が、人文科学・社会科学・自然科学等の教養を身につけることができる。											30		30			
					問題解決に向けた新たな提案や構想を持つことができる。											30		30			
					人間科学との関連で人生を如何に生きるべきかを考えることができる。											40		40			
					授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	100			
	課題探究セミナー A	2	3・5	学修内容に関連して、自ら課題を発見し設定できる。											20		20				
				諸科学から一つのアプローチを選択し、課題に関する情報を収集整理できる。											20		20				
				課題解決に向けての考察を論理的に進めることができる。											20		20				
				自らの課題に対して解決まで導くことができる。											20		20				
				コミュニケーションを通じて相手に自らの課題解決の営みを伝えることができる。											20		20				
				授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	100				
	課題探究セミナー B	2	4・6	学修内容に関連して、自ら課題を発見し設定できる。											20		20				
				諸科学から一つのアプローチを選択し、課題に関する情報を収集整理できる。											20		20				
				課題解決に向けての考察を論理的に進めることができる。											20		20				
				自らの課題に対して解決まで導くことができる。											20		20				
				コミュニケーションを通じて相手に自らの課題解決の営みを伝えることができる。											20		20				
				授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	100				
	教養総合講座 A	2	3・5	現代の問題群を整理することができる。											25		25				
				ひとつの課題を複数の視点から観察し全体像をつかむことができる。											25		25				
				課題に関わる人間の権利と義務をおさえることができる。											25		25				
				これまでの問題解決アプローチをまとめることができる。											25		25				
				授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	100				
	教養総合講座 B	2	4・6	現代の問題群を整理することができる。											25		25				
				ひとつの課題を複数の視点から観察し全体像をつかむことができる。											25		25				
				課題に関わる人間の権利と義務をおさえることができる。											25		25				
				問題解決に向けての新たな提案や構想をもつことができる。											25		25				
				授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	100				
専門基礎科目群	総合情報入門	1	1	本セミナーは、専門課程への関心や興味を喚起する導入科目であり、学生と教員および学生間の良好なコミュニケーション形成の場でもある。授業では、学外見学会、講演会、スポーツを通じた交流などを行うとともに、総合情報学科で学んだ知識を社会で活用するための将来像が早い段階から描けるようキャリアガイダンスを行う。	総合情報学科で学ぶ内容について、自身が感じる興味を説明できる。			20		20						40					
				総合情報学科で学ぶ内容が社会でどのように活かすのかを説明できる。				20								20					
				おおまかに自身の将来像を説明できる。	20	20										40					
				授業科目の貢献度	20	20	20	20	20	0	0	0	0	0	0	0	100				
	コミュニケーションスキル1	2	1	価値観や考え方の違う人とも対話ができる。		10				10						20					
				コミュニケーションの双方向性が理解できる。		10				10						20					
				人前で自分の考えを表現することができる。		10				10						20					
				TPO にあわせた表現ができる。		10				10						20					
				論理的な説明の仕方が理解できる。		10				10						20					
				授業科目の貢献度	0	50	0	0	0	0	50	0	0	0	0	0	100				

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位)			開講期	学修内容	学修到達目標	大学の学位授与の方針															
			必修	選択	自由				a		b			c					d					
									a 1	a 2	b 1	b 2	b 3	c 1	c 2	c 3	c 4	c 5	d 1	d 2	合 計			
																						学科(専攻)の学位授与の方針		
専門基礎科目群	コミュニケーション スキル2	2		2	レポートや小論文など、人の目に触れる文章を書くための文章力を高めるスキルを学ぶ。また、書くことで考えを深めて表現することなどを目的として、具体的に実践を行いながら書くスキルを高める。	書き言葉と話し言葉の違いが理解できる。		10					10						20					
						適切な言葉や話題を選ぶことができる。		10					10						20					
						論理的な表現ができる。		10					10						20					
						取材したり文献を引用したりして考察することができる。		10					10						20					
						簡潔かつ的確に要旨をまとめることができる。		10					10						20					
						授業科目の貢献度	0	50	0	0	0	0	50	0	0	0	0	0	0	100				
						プログラミング1	2		2	商品や組織の紹介説明などインターネットを用いて情報を扱うために、Web に関わる基本的な情報技術を知り、その知識を使って、必要や目的に応じた Web ページを作る力を身に付けます。	基本的な Web サイトの仕組みと HTML の構造がわかる。								10				10	
											基本的な HTML タグの記法がわかり、使える。									15				15
	基本的な CSS の書法がわかり、使える。														15				15					
	文字コードや記号や画像を適切に使える。															15			15					
	Web ページのメイン部分を目的に応じて作成できる。															15			15					
	ヘッダーとフッターを分けて作成できる。															15			15					
	多層構造の Web ページを作成できる。															15			15					
	授業科目の貢献度	0	0	0	0						0	0	0	40	0	0	60	0	0	100				
	経営学概論	2		1	「企業とは何か」、「企業の存在意義は何か」、「企業はどのような仕組みで動いているのか」といった経営に関する基礎を学習すると共に、経営の基礎的部分である「人」、「モノ」、「金」を管理するための制度やそれに関する法規を学ぶ。その上で、企業が組織や戦略の決定を行うプロセスを解説する。また、現代の企業が抱える問題に触れ、社会や経済の変化を踏まえつつ、今後の企業経営のあり方を考える。なお、本講義においては、企業経営の理解を深めるため、多くの事例を用いる。	企業の意味や企業の存在意義を理解できる。								20				20						
						企業を構成している要素とこれらの動きを理解できる。									20				20					
						企業における人、モノ、金を管理する制度を理解できる。									20				20					
						企業における組織と戦略の関係を理解できる。									20				20					
						企業を取り巻く環境変化を把握し、今後の企業経営のあり方について説明できる。									20				20					
						授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	100				
						経済学原論	2		3	経済学の分析対象が人や人の集合であることを認識し、家計、企業、政府の約割や関係を理解した上で、様々な経済活動を市場メカニズムや政府の役割の視点から学ぶ。	経済における家計と消費について理解できる。				5					15				20
											経済における企業と生産について理解できる。				5					15				20
	経済における市場メカニズムについて理解できる。				5										15				20					
	経済における政府の役割について理解できる。				5										15				20					
	経済における新しい視点について理解できる。				5										15				20					
	授業科目の貢献度	0	0	0	25						0	0	0	0	75	0	0	0	0	100				
	スポーツ情報科学概論	2		1	各分野でIT 化が進み、情報をどのように扱うかということがより重要になってきている。スポーツ界において、情報はどのように扱われているのか、バイオメカニクス、運動生理学、統計学の視点から紐解いていく。また、各競技ごとに勝敗を左右する情報は何かということを考えていく。						スポーツ情報科学の歴史を説明できる。					10				10				20
											バイオメカニクスのスポーツへの適応について説明できる。									10			10	
生理学のスポーツへの適応について説明できる。														10	10				20					
統計のスポーツへの適応について説明できる。														10	10				20					
情報科学を生かし、トレーニングを組み立てることができる。														10			10		20					
授業科目の貢献度						0	0	0	0	0	10	0	0	50	20	0	20		100					
入門簿記						2		1	複式簿記の基本的な考え方や用語等、簿記に関する基礎知識を身につけると共に、簿記の基本的な技法、商品売買取引などの基本的な会計処理方法を学ぶ。また、講義の最終段階には単純な帳簿や仕訳帳の作成ができるようになることを目標とする。	複式簿記の意義・目的について概説できる。								20				20		
										複式簿記の原理を利用した仕訳ができる。									20				20	
	手形や有価証券の内容を理解し、これらの処理ができる。													20				20						
	債権・債務の内容を理解し、これらの処理ができる。													20				20						
	決算における仕訳や帳簿システムについて、その基本を理解できる。													20				20						
	授業科目の貢献度	0	0	0	0					0	0	0	0	100	0	0	0	0	100					
	簿記原理	2		2	「簿記入門」で学んだ内容を踏まえ、複式簿記の一連の手続きや商品売買取引の処理を習得する。その上で、各種取引の記帳と帳簿組織の理解に重点をおいて講義する。最終的には、各種の取引の記帳処理、決算整理の記帳処理、特殊仕訳帳制の記帳処理ができることを目標とする。					複式簿記の手続きを理解できる。								20				20		
										商品売買取引の処理ができる。									20				20	
決算整理の記帳処理ができる。														20			20	40						
特別仕訳帳制の記帳処理ができる。														20				20						
授業科目の貢献度						0	0	0	0	0	0	0	0	80	0	0	20		100					

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位)			開講期	学修内容	学修到達目標	大学の学位授与の方針														
			必修	選択	自由				a		b			c					d				
									a 1	a 2	b 1	b 2	b 3	c 1	c 2	c 3	c 4	c 5	d 1	d 2	合 計		
																						学科 (専攻) の学位授与の方針	
専門基礎科目群		会計学	2	3	企業会計の基本となる考え方と、それがどのようにして実際の企業活動の記録に適用されているのかを理解してもらうことを目標とする。さらには記録された情報から、企業活動を読み取る知識も習得する。	会計の意義・目的について説明できる。								15			15						
						会計的なものの見方を身につけ、これを説明できる。								15				15					
						損益計算書、貸借対照表について理解できる。								15			20		35				
						財務諸表の見方について理解ができる。								15			20		35				
						授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	0	60	0	0	40		100				
		ビジネス基礎知識	2	2	企業経営・ビジネスに関する基礎知識・スキルを習得することを目的とする。ビジネスに関する多様なテーマに取り組みながら、経営学を学ぶ意義を理解する。	企業経営・ビジネスについて興味をもつことができる。									5	5	10	20					
						企業経営・ビジネスにおける基本的な理論が理解できる。									5	5	10	20					
						企業経営・ビジネスにおけるヒトの行動が理解できる。									5	5	10	20					
						企業経営・ビジネスにおけるモノの流れが理解できる。									5	5	10	20					
						企業経営・ビジネスにおけるカネの流れが理解できる。									5	5	10	20					
						授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	0	0	25	25	50		100				
		ビジネス基礎演習	2	3	企業経営・ビジネスに関する知識やスキルを演習形式で実践的に学ぶ。企業経営・ビジネスに関する多様なテーマを設定し、課題解決能力を身につける。変化する目の前の現実と向き合い、考え、判断、行動ができる人材になることを目指す。	企業経営・ビジネスにおける最近の課題が理解できる。									10	5	10	25					
						企業経営・ビジネスにおける課題解決の手法が理解できる。									10	5	10	25					
						企業経営・ビジネスにおける最近の課題に対して考察し、解決策を導くことができる。									10	5	10	25					
						企業経営・ビジネスにおける最近の課題に対して自らの意見を分かりやすく説明することができる。									10	5	10	25					
	授業科目の貢献度					0	0	0	0	0	0	0	0	40	20	40		100					
	キャリア論1					1	1	1年次生からの「自己発見」の取り組みが、自分のキャリア形成に極めて重要であることを実践的に学ぶ。また、自分の学生生活を自己責任において確立していく大切さを学ぶと同時に、自ら発見し、自ら語ることの重要性を学ぶ。	キャリアデザインを行なう上での基本的な考え方を説明できる。						20						20		
		自分自身で学生生活を創ることの大切さを理解できる。										20						20					
		大学で学ぶ意味を考え、目標を検討することができる。										20						20					
		大学での学びが、自分の将来に繋がることを理解できる。										20						20					
		社会生活を営む上で重要となる他者と協力し、関係を構築することの大切さを理解できる。										20						20					
		授業科目の貢献度	0	0	0				0	0	0	100	0	0	0	0	0	0		100			
	キャリア論2	1	2	自分の個性、生き方、将来を見つめながら、次に必要な「意識と自覚」を修得する。また、自分を活かすための「自己現状分析」を行うことにより、将来を見据えた具体的計画を立案し、目標達成までのプロセスの重要性とその実行方法について学ぶと同時に、自己表現できる能力を身に付ける。	自分を知り、自分を表現できる。						20						20						
					他者とかわり、関係を構築できる。							20						20					
					職業観を養い、表現できる。							20						20					
					自分の将来の目標・方向性を考え、行動計画の立案ができる。							20						20					
					目標に向けて能動的に行動する姿勢を持つことができる。							20						20					
					授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0		100			
基幹科目	リサーチスキル入門	2	2	総合情報学科の専任教員がオムニバス形式で授業を行う。各教員の研究テーマ、専門分野の解説を聞きながら、大学における研究について理解を深める。	研究とは何かについて説明できる。								10	10			20						
					研究の意義について理解できる。									10	10			20					
					総合情報学科に関する研究テーマについて理解できる。									10	10			20					
					様々な研究手法を理解できる。									20	20			40					
					授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	0	0	50	50	0	0		100				
	基礎セミナー1	2	3	研究に必要な知識・スキルを幅広く習得することを目的とする。各担当の教員が学術研究の手法について演習形式で指導を行っていく。	学術的な研究に関する課題の抽出方法が理解できる。									10	10	10	30						
					課題の調査、データ整理、分析の方法を理解できる。							10		10	10	10		40					
					得られた結果を基にして考察した内容を分かりやすく説明できる。									10	10	10		30					
					授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	0	10	0	30	30	30		100				
	基礎セミナー2	2	4	研究に必要な知識・スキルを幅広く習得することを目的とする。また、同時に各専門分野の研究手法を実践していくことも目的とする。各担当の教員が学術研究の手法について演習形式で指導を行っていく。	学術的な研究に関する課題の抽出方法が理解できる。									10	10	10	30						
					課題の調査、データ整理、分析の方法を理解できる。								10		10	10	10		40				
					得られた結果を基にして考察した内容を分かりやすく説明できる。										10	10	10		30				
					授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	0	10	0	30	30	30		100				
異文化コミュニケーション1	2	1	情報コミュニケーション技術を活用して、英語圏の文化を日本語に変換して知ると同時に、日本の文化を英語に変換して英語圏の人々に発信する方法を学ぶ。	異文化と接することの意義を理解できる。			10			10							20						
				非ネイティブのためのビジネス英語の基礎を理解できる。			10			10								20					
				英語圏の文化を日本語に変換して理解できる。			10			10						10		30					
				日本の文化を英語に変換して発信できる。			10			10						10		30					
				授業科目の貢献度	0	0	40	0	0	20	20	0	0	0	0	20		100					

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位)			開講期	学修内容	学修到達目標	大学の学位授与の方針														
			必修	選択	自由				a		b			c					d				
									a 1	a 2	b 1	b 2	b 3	c 1	c 2	c 3	c 4	c 5	d 1	d 2	合 計		
																						学科(専攻)の学位授与の方針	
専門科目群	基幹科目	異文化コミュニケーション2	2	2	人は、自己と他者の違い、自文化と他文化の違いを知ることにより、自分自身と自文化を理解する。異文化接触のありようを具体的かつ理論的に整理することをとおして、「違いを楽しむ」ことは重要である。この講義では、情報コミュニケーション技術を活用して、英語圏の文化を日本語に変換して知ると同時に、日本の文化を英語に変換して英語圏の人々に発信する方法を学ぶ。	情報コミュニケーション技術（言語翻訳技術）を活用できる。			15			15						30					
						英語圏の文化を日本語に変換して知ることができる。			15										30				
						日本の文化を英語に変換して英語圏の人々に発信することができる。			15			15					10		40				
						授業科目の貢献度	0	0	45	0	0	45	0	0	0	0	0	10	100				
						企業が登場してからの大きな歴史（主に15世紀以降）の流れを理解できる。									15				15				
		経営史	2	1	企業経営の歴史を振り返り、経営者の経営手法や戦略の変遷を学習する。また、経営手法や経営戦略だけでなく、企業を取り巻く環境の変遷についても触れる。本講義においては、日本の企業経営の歴史を中心に取り上げるが、欧米における企業経営の歴史についても触れ、両者の歴史比較を通じて、日本の企業経営特徴を深く理解できるよう工夫する。	企業が登場するようになった社会や経済の変化を説明できる。								15			15						
						企業を取り巻く環境は、どのように変化してきたかを歴史の視点から説明できる。								15				15					
						企業は時代と共に、企業の形態や戦略はどのように変化してきたのかを説明できる。								15		10		25					
						日本の企業の特徴がどのように形成されてきたのかを歴史の視点から説明できる。								15		15		30					
						授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	0	75	0	0	25	100					
						マーケティングに関する基本的な用語を理解できる。									15				15				
		マーケティング概論	2	2	マーケティング活動の基礎知識を学習すると共に、マーケティング活動の手法（市場調査や販売方法）を学ぶ。その上で、具体的な事例を用いて、市場調査や販売方法などが販売促進や市場シェアの拡大にどれほど影響を与えているのかを考える。また、企業のイメージなどについても触れ、日々の生活の中にマーケティング活動が浸透していることの理解を深める。	マーケティングの必要性を説明できる。								15			15						
						企業経営におけるマーケティングの位置づけや役割を説明できる。								15				15					
						現実に行われているマーケティングの戦略を理解できる。								15		10		25					
						特定の企業あるいは製品について、自身が有効であると思われるマーケティング活動を考えることができる。								15		15		30					
						授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	0	75	0	0	25	100					
						民法の基本原則を説明できる。				5				20				25					
		民法	2	3	市民と市民との間の権利と義務の関係を明確にする役割を担うと共に、財産取引と身分（夫婦・相続など）を規律する意味で、民法は重要な法律である。本講義においては、総則を中心に、民法における法律用語や基礎知識を習得すると共に、民法の意義や基本原理等を学習する。その上で、民法総則の各規定について、実例をできるだけ多く取り上げながら、日々の事象を民法の視点から考える。	民法の内容（概要）を説明できる。				5				20			25						
						企業経営における民法の重要性を理解できる。				5				20				25					
						企業経営において、民法が関係する具体的事案を説明できる。				5				20				25					
						授業科目の貢献度	0	0	0	20	0	0	0	80	0	0	0	100					
						商法および会社法の存在意義とその内容（概要）を説明できる。				5				20				25					
						企業の設立に関連する法規について説明できる。				5				20				25					
		会社法	2	4	株式会社を対象に、株主総会・取締役会・代表取締役・監査役・委員会等設置会社などについて法律と現実とを対比させながら、企業の設立および運営の過程を具体的に学習する。その上で、具体的な企業運営として、資金調達や資本構成、計算、利益処分、会社組織の変更、清算などについても法律と現実との対比通じて学ぶ。	企業組織に関連する法規について説明できる。				5				20			25						
						企業の運営に関連する法規について説明できる。				5				20				25					
						授業科目の貢献度	0	0	0	20	0	0	0	80	0	0	0	100					
						一般の財・サービスに比較した交通サービスについて理解できる。				5				15				20					
						わが国の交通事業の現状と課題について説明できる。								15				15					
						経済と交通の結びつきについて説明できる。				5				15				20					
		交通論	2	4	交通サービスは、道路や空港などのインフラ整備、新規参入や運賃変更に対する規制、ルーラル地域の公共交通に対する公的助成などにみられるように、政府の関与（交通政策）の重要性が高い領域である。本講義では、わが国の交通事業の現状と課題を示すとともに、交通政策の根拠と課題、そして望ましいあり方について考察する。	一般道路・高速道路の整備制度について理解できる。							15			15							
						都市間（長距離）鉄道の課題について説明できる。							15				15						
						空港整備制度について理解できる。							15				15						
						授業科目の貢献度	0	0	0	10	0	0	0	90	0	0	0	100					
						社会における流通産業の役割が理解できる。								20				20					
						卸売業の機能について説明できる。								20				20					
		流通産業論	2	3	流通産業（小売業、卸売業、運送業等）に関する理論を学ぶ。百貨店、総合スーパー、食品スーパー、コンビニエンスストア、ショッピングセンターといった各業態の歴史や特徴について学ぶ。卸売業の役割について学ぶ。近年の流通チャネル（インターネット販売）について学ぶ。	小売業の各業態の特徴について説明できる。							20			20							
						日本独特の商慣行が理解できる。							20				20						
						現在の流通産業が抱える問題が理解できる。							20				20						
						授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	100					
						経営管理に関する学説・理論を自分の言葉で説明できる。								20				20					
						経営管理の歴史について自分の言葉で説明できる。								20				20					
		経営管理論	2	3	組織の目標を効率的に達成するためのマネジメントについて学ぶ。そのマネジメントに関する様々な学説・理論を学ぶ。ケーススタディーを通じてマネジメントに関する理論を学びながら、日本企業の実態を理解する。理論が現実をどの程度説明できるのかを考察する。	日本企業の実態について理解し、その特徴を説明できる。							10		20		30						
						現在の日本企業が抱える問題を理解し、その解決策について自分なりの考えを持つ。							10		20		30						
						授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	0	60	0	40	0	100					

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位)			開講期	学修内容	学修到達目標	大学の学位授与の方針														
			必修	選択	自由				a		b			c					d				
									a 1	a 2	b 1	b 2	b 3	c 1	c 2	c 3	c 4	c 5	d 1	d 2	合 計		
																						学科(専攻)の学位授与の方針	
専門科目群	基幹科目	経営組織論	2	4	本授業では、組織のなかの個人と集団の行動を分析する「ミクロ組織論」と組織デザインを考察とする「マクロ組織論」について解説する。「ミクロ組織論」では、モチベーションやリーダーシップといった組織行動理論について学ぶ。「マクロ組織論」では、組織構造の特徴や企業の成長戦略との関係について学ぶ。組織におけるモチベーション向上施策の具体的事例を紹介し、組織行動理論を実践的に学べる授業を行う。	組織の成立要件・存続要件について正確に説明できる。										20			20				
						モチベーションに関する理論を正確に説明できる。														20			
						リーダーシップに関する理論を正確に説明できる。														20			
																				20			
						集団行動に関する理論を正確に説明できる。														20			
						組織構造に関する重要用語を正確に説明できる。														20			

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位)			開講期	学修内容	学修到達目標	大学の学位授与の方針														
			必修	選択	自由				a		b			c					d				
									a 1	a 2	b 1	b 2	b 3	c 1	c 2	c 3	c 4	c 5	d 1	d 2	合 計		
																						学科(専攻)の学位授与の方針	
専門科目群	基幹科目	データサイエンスB	2		4	人の行動や商品の販売など社会におけるできごとについて、量的な基本分析に加えて、質的・量的な調査方法を知り、質的な区分をデータ化して分析することで、正確に評価したり、関連を見つけたり、予測したり、判断したりする方法を身に付けます。	社会調査の種類とそれぞれの特徴がわかる。							10					10				
							質問紙調査の設計、実施、集計、分析ができる。							10							10		
							対面調査の設計、実施、集計、分析ができる。							10							10		
							市場調査の設計、実施、集計、分析ができる。							10							10		
							検定により、2群間の量的な差を判定できる。					10		5							15		
							分散分析により、3群間の量的な差を判定できる。					10		5							15		
							2群間の質的な関連の強さを求めることができる。					10		5							15		
							2群間の質的な関連の有無を判定できる。					10		5							15		
							授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	40	0	60	0	0	0	0	0	0	100	
		プログラミング3	2	4	プログラミング言語およびプログラミング方法に関する理解を進めます。ポインタなどコンピュータの動作に対する基本的理解を深め、さらにさまざまな処理作業を順序立てる練習を積み重ねることで課題を実現する過程を作る思考力を養います。	配列を用いて、数値の繰り返し処理ができる。									15			15					
						配列を用いて、文字列の格納、表示、計数、置き換えができる。										20			20				
						ポインタに関連する「*」と「&」演算子の名前と意味がわかる。										15			15				
						引数がなく戻り値もない基本的なユーザー関数を作り、使える。										15			15				
						引数と戻り値があるユーザー関数を作り、使える。										20			20				
						ユーザー関数の引数にポインタを用いてアドレスを渡す方法がわかる。										15			15				
						授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	100				
		スポーツ情報実践1	2	3	スポーツにおける楽しみや、個人の健康を維持・増進させるための運動プログラムを考え、実際の活動を通じ、自らが考え、判断し、実践できる人材になることを学ぶ。	情報を他人にわかりやすく伝えることができる。								10	10	10	30						
						理解したことを記述して正確に表現できる。								10	10	10	30						
						自らのスキルを効果的に実践できる。								10	10		20						
						習得した知識を活かし成果を上げることができる。								10	10		20						
						授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	30	40	30	100				
		スポーツ情報実践2	2	4	様々な年代におけるスポーツの実践的な活動を通じ、グループの中で協力しアイデアを導き出し、それぞれの役割のもとにチームで考え、判断し、実践できる人材になることを学ぶ。	グループの中で知ったことを他人にわかりやすく伝えることができる。								10	10								
						グループの中で自分が理解したことを記述して端的に表現できる。								10	10	10	30						
						グループの中で自らのスキルを効果的に実践できる。									10	10		20					
						グループの中で習得した知識を活かし成果を上げることができる。									20	10		30					
						授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	20	50	30	100				
		コーチング論	2	2	スポーツにおける「コーチ」「指導者」とは、アスリートを成功へ導くための重要な役割を持つものである。この授業では、組織のリーダーとしての役割、必要な素養、観察能力の必要性を学び、コーチとアスリートの関わり方、トップアスリートの発掘、成長させるための育成方法・強化方法ならびにその評価方法を学ぶ。	コーチ、指導者の役割を説明できる。							20			10		30					
						コーチとアスリートの望ましい関係を説明できる。											10		10				
						ミーティングの方法について説明できる。								10	10		10		30				
						トップアスリートの育成・強化の方法を説明できる。								10	10		10		30				
						授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	0	0	40	20	0	40		100			
		トレーニング論	2	3	我々の身体は、それぞれの年代により成長する部位や発達速度が大きく異なっている。ヒトの身体の発育・成長には、トレーニングが大きな影響を及ぼす。そのトレーニング方法や、種類について理解し、特に成長の著しいジュニア期における発育発達とそのプログラム、身体的な特徴・心理的な特徴について学ぶ。	トレーニングの進め方や種類を説明できる。								10		10	10	30					
						発育発達期の特徴について説明できる。									10			10		20			
						発育発達期のプログラムを作成できる。									10		10	10		30			
						体力テストの方法について説明できる。									10			10		20			
						授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	0	0	40	0	20	40		100			
		スポーツ心理学	2	4	我々は、日常生活の様々な場面で緊張や不安、喜怒哀楽などの情緒の変化を体験する。このようなヒトの心理的な変化の部分について理解することは、日常の様々な場面での対応力を育むことになる。ここではスポーツと心について学び、動機づけの重要性やコーチとしての心理を理解するとともに、メンタルマネジメントや心理的なコンディショニングについて学ぶ。	動機づけについて説明できる。						10				10		30					
						メンタルマネジメントについて説明できる。						10				10		10		30			
						あがりやスランプのメカニズムについて説明できる。									10			10		20			
						イメージトレーニングの方法を説明できる。									10			10		20			
						授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	20	0	0	0	40	0	40		100			
		スポーツライフと社会	2	2	我々の生活の中にはスポーツが深く根付いている。文化としてのスポーツの歴史を理解し、地域社会におけるスポーツ振興の現状を学び、地域における子供から老人までの様々な年代の対象者のスポーツライフについて学ぶ。	スポーツの歴史と文化を説明できる。						10					10		20				
						地域におけるスポーツ振興を説明できる。						10			10			10		30			
						各年代の対象に合わせたスポーツライフを説明できる。						10			10			10		30			
						障害者スポーツについて理解し、説明できる						10						10		20			
						授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	40	0	0	20	0	0	40		100			

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位)			開講期	学修内容	学修到達目標	大学の学位授与の方針														
			必修	選択	自由				a		b			c					d				
									学科(専攻)の学位授与の方針														
									a 1	a 2	b 1	b 2	b 3	c 1	c 2	c 3	c 4	c 5	d 1	d 2	合 計		
専門科目群	基幹科目	スポーツライフと栄養	2		3	現代社会において我が国では様々なスポーツプロモーションが行われており、スポーツに触れ合う機会が増加している。また、健康な生活を送るうえで運動と食生活の関係は密接に関わりあっている。ここでは身体の仕組みと運動の関係、栄養摂取と食生活などについて学ぶ。	我が国のスポーツプロモーションについて説明できる。									15			10	25			
						身体の仕組みと働きについて説明できる。									15			10	25				
						スポーツと栄養について説明できる。									15			10	25				
						アスリートの栄養摂取と食生活について説明できる。									15			10	25				
						授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	0	0	60	0	0	40	100				
		スポーツライフと健康	2		4	国民がスポーツを実践する機会は極めて多くなってきている。学校体育から生涯スポーツまで長い期間スポーツを行う人々にとって、怪我や病気スポーツでの傷害など日常生活を行う上でも大きな問題となっている。この授業ではスポーツに関わる医学的な知識の基礎を学び、障害の発生や外傷に対応できる知識を養う。	スポーツと健康について説明できる。								15			10	25				
						救急処置について説明できる。									15			10	25				
						スポーツ選手の健康管理について説明できる。									15			10	25				
						スポーツ活動中に発生するケガや病気について説明できる。									15			10	25				
						授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	0	0	60	0	0	40	100				
		データサイエンスの	2		2	スポーツ現場だけでなく健康・体力維持増進にデータサイエンスが用いられるようになってきている。健康・体力維持増進にデータサイエンスがどのように貢献しているのかを学ぶ。また、各競技ごとに重要なデータについてバイオメカニクス、生理学、統計学の視点からそれぞれ調査し発表を行うことで、データサイエンスをスポーツ現場に生かせる能力を養う。	健康・体力にデータサイエンスがどのように貢献しているか説明できる。							10	10	10			30				
						バイオメカニクスの視点から競技力向上につながる分析ができる。									10		10			20			
						生理学視点から競技力向上につながる分析ができる。									10		10			20			
						統計学視点から競技力向上につながる分析ができる。									10	10	10			30			
						授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	0	40	20	40	0	0	100				
		測定評価法	2		3	運動生理学を基盤とした測定実習を通じ、データを収集・分析するスキルを習得する。さらに得られた分析結果を、運動・スポーツの現場における指導の質や安全性の向上に役立つ情報へ要約し、発信するスキルを身につける。	運動・スポーツがヒトの体に及ぼす生理的影響について、その測定法を学び実践することができる。					10			20	10			40				
						測定結果を分析し、評価することができる。								20	10			30					
						運動生理学の知識を基盤とし、科学的根拠に基づいた運動処方を立案できる。								20	10			30					
						授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	10	0	0	60	30	0	0	100				
						コンディショニング	2		3	スポーツに関連したコンディショニングおよびスポーツ医学の基本的事項について学ぶ。傷害予防、疲労回復を目的としたコンディショニング方法について、知識や技術を習得することを目的とする。また、スポーツ活動での実践が可能となるように、スポーツ活動中に生じる外傷・障害や内科的な病気について理解した上で、アスリートの健康管理や傷害対策について考える力を身につける	コンディショニングという言葉の意味とその内容について理解することができる。								20				20
		スポーツ活動中に生じる外傷や内科的な病気およびその救急処置について理解することができる。													20				20				
		アスリートの健康管理について理解することができる。													20		10		30				
		スポーツ活動中における障害対策を理解することができる。													20		10		30				
		授業科目の貢献度	0	0	0					0	0	0	0	0	80	0	20	0	100				
		コンディショニング演習	2		4	スポーツ場面における傷害予防、疲労回復を目的としたコンディショニング方法について、解剖学や運動学を理解し、テーピング、ストレッチング等の具体的なコンディショニングの手法を交え、知識を習得し実践できる力を身につける。	スポーツ場面における傷害予防を実践できる。								20				20				
						運動後の疲労回復について実践できる。									20				20				
						スポーツ現場で使用するテーピングを使用することができる。									20		10		30				
						ストレッチ等のコンディショニング手法を実践できる。									20		10		30				
						授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	0	0	80	0	20	0	100				
	展開科目	データサイエンスC	2	5	オブジェクト、メソッド、プロパティの組み合わせによりステートメントが構成されることが理解できる。						5		5					10					
					データのソート、フィルタリングのマクロを記録、登録、使用できる。								5		5			10					
					相対参照を用いてループのマクロコードを記述できる。								5		5	5		15					
					相対参照を用いて条件分岐のマクロコードを記述できる。								5		5	5		15					
					データ入力インターフェースのマクロコードを記述できる。								5		5			10					
					条件に合った抽出のためのクエリを作成、実行できる。								5		5	5		15					
					テーブル間の関連付けをして、データの入力ならびに入力制限ができる。								5		5	5		15					
					リレーショナルデータベースにおいてデータ入力効率を考えてフォームを作成できる。								5		5			10					
					授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	40	0	40	0	20	0	0	100					

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位)			開講期	学修内容	学修到達目標	大学の学位授与の方針												
			必修	選択	自由				a		b			c					d		
									a 1	a 2	b 1	b 2	b 3	c 1	c 2	c 3	c 4	c 5	d 1	d 2	合 計
専門科目群	展開科目	プログラミング4		2	5	コンピュータで問題を解決するための現実的かつ汎用的な手法の基本を学びます。データの構造や並べ替えなど具体的な手順を構成してプログラムとして実現する課題を通して、論理的思考を身に付けます。	構造体を記述して、関数の中で使うことができる。									15			15		
							共用体型と列挙型の仕組みがわかり、使える。										15			15	
							スタックとキューの構造がわかり、基本操作ができる。										15			15	
							線形探索と二分探索の方法がわかる。										15			15	
							バブルソート、選択ソート、挿入ソート、クイックソート、シェルソートの方法がわかる。										15			15	
							バブルソート、選択ソート、挿入ソートを使える。										10			10	
							関数の再帰的呼び出しの方法がわかり、使える。										15			15	
							授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	100	
		情報ネットワーク&モデリング		2	6	情報科学技術の発展により、ビジネスならびにスポーツ界で人工知能の利用が期待されるため、機械学習のモデルとアルゴリズムの基本を知り、社会における個人・組織の活動に必要な最適な値を求めたり、推測したりする方法を身に付けます。	機械学習の教師有り、無し、強化学習の基本がわかる。									10			10		
							知識表現のプロダクションルールとプロダクションシステムの基本がわかる。										10			10	
							階層型ニューラルネットワークの基本がわかる。										5			20	
							畳み込み型ニューラルネットワークの基本がわかる。										5			20	
							遺伝的アルゴリズムの基本がわかり、必要な値を求めることができる										5			20	
							群知能の粒子群最適化法の基本がわかる。										5			20	
							授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	20	0	0	0	40	40	0	100	
							人的資源管理論		2	5	重要な経営資源である労働力を効率的に利用するための基本理論や制度を学習すると共に、日本における具体的な人事・労務管理制度の内容を学ぶ。今後の経済状況および産業構造の変化を踏まえつつ、今後の労働力の効率的な利用とは何かを企業および社会の視点から考える。	人的資源の重要性について説明できる。								10	10
		経営における人事制度や労務管理制度の内容について説明できる。														10	10			20	
		日本と欧米との人的資源に対する考え方の違いを理解できる。														10	10			20	
		日本企業の人事制度や労務管理制度に関する近年の変化を説明できる。														10	10			20	
		今後の経済や社会の動向を踏まえた人事制度や労務管理制度について説明できる。														10	10			20	
		授業科目の貢献度	0	0	0	0						0	0	0	0	50	50	0	0	100	
		経営情報論		2	5	情報あるいは情報システムをいかに組織の経営に役立てるか、また役立つような情報システムをいかに構築するかを、情報システムを活用する組織の立場に立って学ぶ。そのためにまず、情報システムとは何か、何を狙いとして活用されるのかを論ずると共に、ここに至る発展の経緯を振り返る。また、組織が情報システムを作り上げる上での課題とそれに影響を与える情報産業との関係を理解する。	情報化社会について理解できる。					10			10				20		
							経営情報システムについて理解できる。						10			10				20	
							情報システムについて理解できる。						10			10				20	
							企業における情報システムについて理解できる。						10	10		20				40	
							授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	40	10	0	50	0	0	0	100	
		経済データ分析		2	5	本授業では経済現象を統計的に分析する手法を学ぶ。実際の経済データを用いての演習を行いながら、実証分析手法を修得する。また、コンピュータを用いた分析方法の解説も行い、統計分析用ソフトウェアの操作方法も理解する。	経済データに対する統計的分析手法が理解できる。								10		10		20		
							モデルを構築し、回帰分析手法により推定することができる。									10		10		20	
							自力で経済現象を示すデータを入手し、分析することができる。									10		10		20	
							複雑な因果関係をモデル化し、推定することができる。									20		20		40	
							授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	0	50	0	50	0	0	100	
		財務会計論		2	5	本授業は、財務会計における基礎的な知識を習得する。本授業は、企業が公表する財務諸表（損益計算書、貸借対照表、キャッシュフロー計算書）から、企業業績・財務状況を読み取ることを目的としている。	財務会計の考え方が理解できる。									25			25		
							財務諸表の役割が理解できる。										25			25	
							財務諸表の用語を説明できる。										25			25	
							財務諸表から経営状態を分析できる。										25			25	
							授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	100	
		消費者行動論		2	5	本授業では、消費者が製品やサービスを購入する過程でどのような行動をとるかについて考察する。情報処理や意思決定などプロセスを学び、消費者の行動を分析できることを目指す。消費者行動論の視点から、企業のマーケティング活動を分析する。	消費者行動に関する理論を理解できる。									25			25		
							消費者の購入までの過程、行動パターンが理解できる。										25			25	
							消費者の意思決定に関する理論が理解できる。										25			25	
							消費者行動論を活かした企業のマーケティング活動について説明できる。										25			25	
							授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	100	
		マーケティング		2	6	マーケティングにかかわる意思決定のために必要な情報を生み出すプロセスを学ぶ。マーケティング分析の手順を学ぶ。実際にマーケティングデータを用いて分析を行う。	マーケティング分析の手順が理解できる。								10				10		
							マーケティング分析で使用する統計的分析手法が理解できる。										10		10	20	
							統計的分析手法から得られた分析結果について、適切な解釈ができる。										10		10	20	
							データ収集・分析・解釈といった調査プロセスを実行できる。										25		25	50	
							授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	0	55	0	0	45	0	100	

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位)			開講期	学修内容	学修到達目標	大学の学位授与の方針														
			必修	選択	自由				a		b			c					d				
									a 1	a 2	b 1	b 2	b 3	c 1	c 2	c 3	c 4	c 5	d 1	d 2	合 計		
																						学科(専攻)の学位授与の方針	
専門科目群	展開科目	管理会計論	2	5	企業経営者は変化に応じて会社を柔軟にマネジメントしなければならない。利益の向上、市場シェア獲得、製品(サービス)提供を通じた社会貢献など種々の目的を達成しつつ、経営資源の効率的なアウトプットが求められる目的実現には適切な経営計画と末端までおよび統制が不可欠である。管理会計は企業の経営戦略立案や意思決定に関わる重要なツールである。ビジネスの成否を決定づけることもある。本講義では、企業規模の大小を問わず、また、上場・非上場を問わずマネジメントのための会計として重要な役割を果たす管理会計の理論及び手法を理解する。	管理会計と財務会計の違いや管理会計の意義が理解できる。									15			15					
						管理会計の業績評価、意思決定に関する財務分析、予算統制が理解できる。										15				15			
						短期利益計画、事業部の業績評価が理解できる。										15				15			
						経営意思決定に関する理論と技法が理解できる。										15		10		25			
						管理会計と経営戦略の理論的接点が理解できる。										15		15		30			
						授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	0	0	75	0	25	0		100			
		スポーツ情報実践3	2	5	スポーツにおける様々なカテゴリーについての課題発見や問題解決までのプロセスを、それぞれがリーダーとなりコーチングすることでグループでの目標達成を実現することを学ぶ。	スポーツ現場から問題を見出すことができる。						10				10			20				
						目標を設定し、個々が主体的に関わることができる。						10						10		20			
						多面的に物事を見ることができる。							20							20			
						わかりやすく表現することができる。								20						20			
						論理的に根拠に基づいて結論を導き出すことができる。								10		10				20			
						授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	20	50	0	20	0	0	10		100			
		経営分析	2	6	企業経営の健全度を分析する基礎を学習すると共に、健全な企業経営とは何かを学ぶ。企業経営を図る尺度として、これまでは財務諸表データが用いられてきたが、近年においては、キャッシュフロー分析や投資家サイドの分析などの多様な視点からの評価が為されるようになった。これらを踏まえ、本講義においては、多様な視点からの経営分析ができることを大きな目標とする。	経営分析する意義が理解できる。									15	5			20				
						経営分析を行ういくつかの手法について説明できる。										15	5			20			
						企業経営の分析を行ういくつかの基準について説明できる。										15	5			20			
						財務諸表から企業経営の健全度を把握できる。										15	5			20			
						キャッシュフロー分析から企業経営の健全度を把握できる。										15	5			20			
						授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	0	0	75	25	0	0		100			
		ベンチャー論	2	6	ベンチャービジネスのビジネスモデルの理論やベンチャービジネスの特徴を学習する。その上で、具体的に起業するための方法(経理や財務、法律への対応)や、ベンチャービジネスを行うために必要な人材(リーダー像)、ベンチャービジネスに必要な経営などを学ぶ。なお、起業の方法などについては、バーチャルとして体験できるような講義を行う。	ベンチャービジネスの内容や存在意義、魅力を説明できる。									10				10				
						これまでのベンチャービジネスの事例をいくつか説明できる。										10				10			
						具体的にベンチャービジネスを行うための方法を説明できる。		10								20		10		40			
						ベンチャービジネスに必要な経営方法について説明できる。		10								20		10		40			
						授業科目の貢献度	0	20	0	0	0	0	0	0	60	0	20	0		100			
						インターネットビジネス	2	6	インターネットは、1990年代中旬から普及し、そのビジネスも加速度的に拡大した。いまやインターネット・テクノロジーは、ビジネスにおいてもなくてはならない基盤となっている。本講義では、まず、インターネットビジネスの基礎を学習する。併せて、昨今の「x Tech(クロステック)」に象徴されるインターネットを中心としたICT(Information and Communication Technology(情報通信技術))と既存技術との融合など外部環境(社会や経済)の変化を踏まえ、多くの事例を基に、インターネットビジネスのビジネスプラン、デジタルマーケティングについて検討する。事例では、インターネットビジネスを展開している具体的な企業や業種ごとに説明する。また、これらの比較を通じて、インターネットビジネスの本質や可能性を考察する。	インターネットビジネスの内容について説明できる。										10			10
		具体的なインターネットビジネスの事例を説明できる。															10			10			
		インターネットビジネスの利点と問題点を説明できる。		20												20		10		50			
		インターネットビジネスにおける決済システムについて説明できる。		10												10				20			
		デジタルマーケティングについて説明できる。														10				10			
		授業科目の貢献度	0	30	0					0	0	0	0	0	60	0	10	0		100			
		スポーツ経営学	2	6	スポーツ経営学の基礎的な理論を解説し、スポーツサービ論、スポーツマーケティング論などについて解説するとともに、生涯スポーツ振興をめぐるマネジメント問題、民間営利スポーツ施設をめぐるマネジメント問題、企業スポーツやプロスポーツなどのトップスポーツをめぐるマネジメント問題などを取りあげ、その領域特性や課題を検討する。	スポーツ経営に関連する法律や制度を理解する。								10	20	10			40				
スポーツ行政、企業とスポーツ、民間・公共スポーツ施設、スポーツイベント等を経営学的な観点から捉え、理解を深める。														20	10			30					
スポーツに対する経営学視点からの見方・捉え方を学び、知識を深める。														20	10			30					
授業科目の貢献度	0					0	0	0	0	0	0	10	60	30	0	0		100					
物流論	2	5	物流コストや物流コストと深い関係のある在庫費用に関する費用構造や費用発生メカニズムを学習する。また、実例を通じて、具体的な物流コストの削減や適切な在庫管理を学ぶと共に、今後の社会および経済の変化を踏まえ、新たな物流コストの削減や適切な在庫管理を考える。	物流と流通の違いが理解できる。										20			20						
				物流コストを構成する費用要素について説明できる。													20		20				
				在庫の意義や問題を理解できる。										20				20					
				従来行われてきた物流コストの削減について説明できる。										20				20					
				適切な在庫管理の概念を理解できる。											20			20					
				授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	0	0	80	20	0	0		100					
中小企業論	2	5	中小企業は、これまで日本の産業経済において重要な位置を築いてきた。中小企業は、全企業のうち99.7パーセントを占めている。従業員数では、全体の約70%が中小企業に所属している。近年では、ベンチャー企業による技術革新や雇用創出効果が注目される。これら、中小企業やベンチャー企業は、大企業と比べてよい点も悪い点も持ち合わせている。その多面性を具体的なイメージを理解してもらいたい。本講義では、中小企業やベンチャー企業に関する理論と実例を学ぶ。	中小企業の歴史的変遷について理解できる。									10				10						
				日本の下請システムが理解できる。										10				10					
				産業集積と構造と役割について理解できる。										20				20					
				ベンチャー企業について理解できる。										20				20					
				事業創造と企業の成長プロセスが理解できる。										20		20		40					
				授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	0	0	80	0	0	20		100					

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位)			開講期	学修内容	学修到達目標	大学の学位授与の方針														
			必修	選択	自由				a		b			c					d				
									a 1	a 2	b 1	b 2	b 3	c 1	c 2	c 3	c 4	c 5	d 1	d 2	合 計		
																						学科(専攻)の学位授与の方針	
専門科目群	展開科目	国際経営論	2	6	国際経営において、グローバル化は、大きな影響を受けるようになった。具体的には、グローバル・サプライチェーンという形で、国境を越えてつながっている。したがって、財務計画や、販売計画、生産計画、調達計画などもそれぞれ限られた範囲での視点ではなく、企業が置かれている環境や、企業内それぞれの機能との連携を考慮しながら企業全体へのインパクトを考え策定することが必要である。ビジネスのグローバル化は、政治経済、文化、貿易体制の変化といったマクロ現象から、外国市場への参入戦略、調達、組織、人的資源管理、ブランド管理などミクロ現象まで幅広い。それらから、グローバル化した社会における企業のメカニズムを理解することができる。本講義では、事業計画・戦略の重要性を認識するとともに、より有効な計画策定に必要な視点やその意思決定プロセスについて学ぶ。	企業の業務の流れが理解できる。									10				10				
						グローバル化した社会においての企業を取り巻く環境について説明できる。									10					10			
						意思決定の方法が理解できる。									20					20			
						業績評価の方法が理解できる。									20					20			
						ビジネスで成功するための計画策定からオペレーションまでが理解できる。									20		10	10		40			
						授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	0	0	80	0	10	10		100			
		金融と財務	2	6	本講義では、金(カネ)の側面から経営に焦点を当て、企業における金の管理の基礎を学習する。その上で、貸借対照表と損益計算書の関係や、そこから見られる企業活動の見方を学ぶ。近年においては、資金調達の変化や新たな財務指標などが見られていることを踏まえ、新たな手法および基準の中で「金」を管理する基礎についても会得する。	金融および財務の内容が理解できる。									20	5			25				
						貸借対照表と損益計算書の関係が理解できる。									20	5				25			
						企業における資金調達方法と近年における資金調達の変化が理解できる。									20	5				25			
						企業のグローバル化に伴う金融や財務の内容が理解できる。									20	5				25			
						授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	0	0	80	20	0	0		100			
		労働法	2	5	労働法の基本理念、基礎概念、法規制の基本的内容について学習する。その上で、具体的な事例を用いて、賃金や労働時間、福利厚生などの労働環境の実情を学ぶと共に、労働環境に関する今日の問題やその解決策を考える。	労働者に関わる法律の必要性(意義)が理解できる。									25				25				
						労働者保護や労働契約、労働組合に関わる法律の概要が理解できる。									25					25			
						労働者保護や労働契約、労働組合に関する具体的な団体交渉や判例を説明できる。									25					25			
						労働を取り巻く今日的な問題に対して、解決に関する自身の意見を述べることができる。									25					25			
						授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	0		100			
		知的財産権	2	6	人間の独創的な知的創造活動について、その創始者に一定期間の権利保護をあたえるのが知的財産権制度である。知的財産権という言葉は、文化的創造物を保護する著作権まで幅広く含む概念である。このうち産業財産権と呼ばれる特許権、実用新案権、意匠権、商標権を中心として学ぶ。産業財産権制度は、独占権の付与により、模倣防止を図り、研究開発の奨励、商取引の信用を維持して、産業の発展に寄与することを学ぶ。	知的財産権の種類が理解できる。									25				25				
						企業における知的財産権の重要性が理解できる。									25					25			
						意匠権について説明できる。									25					25			
						著作権について説明できる。									25					25			
						授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	0		100			
環境経営論	2	6	企業の存続・成長と地球環境保全との両立に関する先行理論を解説しながら、実際に私たちが環境経営を進める上で、どのような取り組みが必要かについて学ぶ。そこでは、環境経営の概念の捉え方をはじめ、事業レベル、製品・サービスのレベル、工場などの拠点レベルで、それぞれ資源リサイクル、省エネルギー、化学物質の管理といった各論がどのように実施されているか、先進企業等の具体的な事例を参照する。	環境経営の概念について説明できる。									20				20						
				事業レベルでの資源リサイクル、省エネルギー、化学物質の管理が理解できる。									20					20					
				製品・サービスのレベルでの資源リサイクル、省エネルギー、化学物質の管理が理解できる。									20					20					
				工場などの拠点レベルでの資源リサイクル、省エネルギー、化学物質の管理が理解できる。									20			20		40					
				授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	0	0	80	0	0	20		100					
スポーツと安全	2	5	スポーツにおいて、成果を上げるためにはPDCAは必須である。特に計画的に物事をマネジメントすることや、安全管理などは指導者にとっては必須である。またスポーツ実践中の事故や人権などの法的な知識も備えておく必要がある。ここでは指導計画や活動中の安全管理、スポーツ指導者の法的責任を理解することを学ぶ。	指導計画を立てることができる。									10			10	20						
				スポーツ活動と安全管理を説明できる。									10			10		20					
				スポーツ事故と法的責任について説明できる。									20			10		30					
				怪我とリハビリテーションについて説明できる。									20			10		30					
				授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	0	0	60	0	0	40		100					
マネジメント	2	5	日本はこれまで学校スポーツに依存してきた、企業スポーツに後押しされながら発展してきた。しかし、時代の流れとともに、少子化や景気の動向に左右されスポーツ人口の減少等の問題が出てきている。この授業では地域スポーツに目を向け、総合型地域スポーツクラブの采井や組織のマネジメント、指導者の育成などについて学ぶ。	総合型地域スポーツクラブについて説明できる。									10			10	20						
				スポーツ組織のマネジメントやマーケティングについて説明できる。									10			10		20					
				競技力向上のチームマネジメントについて説明できる。									20			10		30					
				競技力向上のための情報活用について説明できる。									20			10		30					
				授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	0	0	60	0	0	40		100					
異文化理解演習	2	5	本授業は、非英語圏の国での海外研修と渡航前後の5回の春期集中講義から成り立っている。海外研修先の最低限必要な言語を事前に修得し、現地の方々と直接交流を図ることで実践的な語学力の向上のみならず、より一層の異文化理解と国際感覚の体得を目的とする。渡航までに、研修先の国の基本的な知識を身につけておく。また、日本の伝統・文化を研修先の国の言語を用いて自己発信できるようにする。	非英語圏の研修先国の風俗習慣、文化、歴史など基本的な事項を理解できる。							30			20		50							
				日本の伝統・文化などの基本的事項を研修先国の言語で説明できる。							30			20			50						
				授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	60	0	0	0	40	0		100					

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位)			開講期	学修内容	学修到達目標	大学の学位授与の方針													
			必修	選択	自由				a		b			c					d			
									学科(専攻)の学位授与の方針													
									a 1	a 2	b 1	b 2	b 3	c 1	c 2	c 3	c 4	c 5	d 1	d 2	合 計	
専門科目群	展開科目	インターンシップ (学外研修)	2	6	企業におけるインターンシップを行う。	実習先企業の業務を理解できる。	30												30			
					実務で発生する問題点と解決策の一例を説明できる。	40												40				
					机上の知識と現実の問題との格差を説明できる。	30												30				
					授業科目の貢献度	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100				
	卒業研究	セミナ1	2	5	本授業は、卒業研究を行うために必要な基礎知識を修得する。授業は卒業研究の研究室単位で行われる。「セミナⅠ」では、卒業研究の行う基礎となる理論・学説や研究方法などについて授業が行われる。授業の内容は、各卒業研究の指導教員の研究専門分野によって異なる。	卒業研究の基礎となる理論・学説を理解できる。			5	10	5	10	10		5	5			50			
					卒業研究の研究方法を理解できる。				10	5	5	5		5	10	10	50					
					授業科目の貢献度	0	0	5	10	15	15	15	5	5	10	10	10	100				
		セミナ2	2	6	卒業研究の一環として行われる授業である。そのため、授業は卒業研究の研究室単位で行われる。卒業研究では各指導教員の下で研究論文をまとめることになるが、「セミナ2」では、その基礎となる理論・学説や研究方法などについて授業が行われる。授業の内容は、各卒業研究の指導教員の研究専門分野によって異なる。	卒業研究の基礎となる理論・学説をより深く理解できる。			5	10	5	10	10		5	5		50				
					卒業研究の研究方法をより深く理解できる。				10	5	5	5		5	10	10	50					
					授業科目の貢献度	0	0	5	10	15	15	15	5	5	10	10	10	100				
		セミナ3	2	7	卒業研究の一環として行われる授業である。そのため、授業は卒業研究の研究室単位で行われる。卒業研究では各指導教員の下で研究論文をまとめることになるが、セミナ3でもその基礎となる理論・学説や研究方法などについて授業が行われる。授業の内容は、各卒業研究の指導教員の研究専門分野によって異なる。	卒業研究に関連する理論・学説を理解できる。			5	10	5	10	10		5	5		50				
					卒業研究のまとめ方を理解できる。				10	5	5	5		5	10	10	50					
					授業科目の貢献度	0	0	5	10	15	15	15	5	5	10	10	10	100				
		セミナ4	2	8	卒業研究の一環として行われる授業である。そのため、授業は卒業研究の研究室単位で行われる。卒業研究では各指導教員の下で研究論文をまとめることになるが、セミナ4では、卒業論文についての研究成果発表が中心となる。授業の内容は、各卒業研究の指導教員の研究専門分野によって異なる。	卒業研究の内容について論理的に発表できる。			5	10	5	10	10		5	5		50				
					研究成果を根拠を基にわかりやすく表現できる。				10	5	5	5		5	10	10	50					
					授業科目の貢献度	0	0	5	10	15	15	15	5	5	10	10	10	100				
	卒業研究	6		7・8	卒業研究は、指導教員が1年間にわたる取り組み活動、卒業論文の内容、および発表の内容・理解度について、到達度を基準に則り適正・厳正に評価・審査する。総点100点のうち、60点以上が合格となる。	卒業研究に関連する理論・学説を理解できる。			10		10							20				
					卒業研究のまとめ方を理解できる。							10						10				
					卒業論文を作成し、専門的な研究成果を発表できる。					10	10			5	5	5	35					
					卒業研究を通じて自主性、協調性、問題解決能力を身につけている。					10	10			5	5	5	35					
					授業科目の貢献度	0	0	10	0	10	20	20	10	0	10	10	10	100				

総合情報学科

開講科目一覧<人間科学科目群>

区分		授業科目	単位数			毎週授業時間数								備考
						1年次		2年次		3年次		4年次		
			必修	選択	自由	1期	2期	3期	4期	5期	6期	7期	8期	
人間科学科目群	Aグループ	ファースト・イヤー・ 세미나 基礎英語 세미나 英語スキル1 英語スキル2 資格英語 実践英語 英語ライティング 英語プレゼンテーション 中国語入門1 中国語入門2	1 2 2 2	 1 1 1 1	1	2 2 2 2 2	[2] [2] [2] 2	 [2] [2]	 2	 2	 2	 2	集中・遠隔 集中・遠隔	
		スポーツ実技A スポーツ実技B スポーツと健康の科学A スポーツと健康の科学B 情報リテラシー概論 データサイエンス概論	 1 1	1 1 1 1	 ◎ ◎	 ◎ ◎	 							

(注) 1. 毎週授業時間数の[]は、再履修者向けに開講することを示す。

(次ページにつづく)

開講科目一覧＜専門基礎科目群および専門科目群＞

区分		授業科目	単位数			毎週授業時間数								備考
						1年次		2年次		3年次		4年次		
			必修	選択	自由	1期	2期	3期	4期	5期	6期	7期	8期	
専門科目群	展開科目	物流論		2						2				集中 集中 集中
		中小企業論		2						2				
		国際経営論		2							2			
		金融と財務		2							2			
		労働法		2						2				
		知的財産権		2							2			
		環境経営論		2							2			
		スポーツと安全		2						2				
		スポーツマネジメント		2						◎				
		異文化理解演習		2						◎				
	インターンシップ（学外研修）		2							◎				
	卒業研究	セミナ1	2							2				
		セミナ2	2								2			
セミナ3		2									2			
セミナ4		2										2		
卒業研究		6									◎	◎		
小計			20	114		6	14	24	24	28	20	2	2	
			134											
合計			27	130	4	16	20	30	26	28	20	2	2	
			161											

（注） 1. 毎週授業時間数の（ ）は、同一科目を複数期に開講することを示す。

2. 毎週授業時間数の[]は、再履修者向けに開講することを示す。

3. 「卒業研究」の単位認定は、8期とする

本学を卒業するために必要な単位数は 124 単位とし、各学部学科の定める卒業要件は、別に定める。
4 年以上在学し、所定の授業科目を履修し、所定の単位を修得した者に対し学長は卒業を認定する。

【卒業研究履修基準】

卒業研究を履修できる条件は次のとおりです。

学年	必要な単位数(注1)	必要な科目(注2)	
25 生	卒業要件として認められる単位のうち、100単位以上修得すること。	総合情報入門 세미나	基礎英語 세미나

注1) 人間科学科目群の科目については、必修科目と選択科目を合計して27単位を超えることができません。
注2) 基礎英語 세미나の科目については、**卒業研究履修基準の必要単位数(100単位)には含みませんが、合格していることが必要です。**
<不合格者>4 年次生に進級しますが、卒業研究は履修できません。

【卒業要件】

卒業に必要な要件は次のとおりです。

学年	科目群	必要単位数	
25 生	人間科学科目群	以下の要件を全て満たすこと (1)必修科目 9 単位を含め 27 単位 (2)「スポーツ実技A」「スポーツ実技B」の 2 科目 2 単位または、 「スポーツと健康の科学A」「スポーツと健康の科学B」の 2 科目 2 単位 (3)人間・歴史文化・こころの理解から 2 単位以上 (4)国際情勢と社会のしくみから 2 単位以上 (5)科学的なものの見方から 2 単位以上	
	専門基礎科目群	必修科目 7 単位	左記条件を満たし 97 単位以上
	専門科目群	必修科目 20 単位	

<不合格者>次年度の前期で卒業資格を充足すれば前期末で卒業となります。

【他学部・他学科履修】

工学部及び建築学部の各学科、情報システム学科及び情報デザイン学科の専門基礎科目群および専門科目群の単位を修得した場合、修得した単位は、「卒業に必要な単位数」に算入することはできない。

教職課程

1. 教職課程について

卒業後、教育職員を志望するものは、「教育職員免許法」に定める教育職員免許状を取得する必要があります。そのためには、卒業に必要な所定の単位を修得するとともに、所要条件を満たし、かつ所定の単位修得し、申請することが必要になります。

2. 取得できる免許状について

教職課程を履修し、卒業と同時に申請し取得できる免許状は、下記のとおりです。

コース	免許状の種類	免許教科	対象学科
数学コース	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	数学	情報システム学科
情報コース	高等学校教諭一種免許状	情報	情報システム学科

3. 教職課程の科目区分・必要単位数

教職課程科目は、【教員免許取得のための必修科目】【教育の基礎的理解に関する科目等】【教科及び教科の指導法に関する科目】に大別され、それぞれの必要単位数は、下記のとおりになります。

教職課程科目の科目区分と必要単位数

(数字は単位数)

コース	教員免許取得のための必修科目 (教育職員免許法施行規則第66条の6)	教育の基礎的理解 に関する科目等	教科及び教科の指 導法に関する科目
数学コース	10単位 【表1】	中学 31単位※ 【表2-1】	中学 36単位 【表2-2】
		高校 27単位 【表2-1】	高校 40単位 【表2-3】
情報コース		高校 27単位 【表3-1】	高校 40単位 【表3-2】

※「数学コース」履修者において、中学校教諭一種の免許状を取得しようとする者は、教職課程科目の履修の他に、社会福祉施設と特別支援学校で、計 7 日以上「介護等体験実習」を行う必要があります。「介護等体験実習」とは、障がい者、高齢者に対する介護、介助、これらの人たちとの交流等の体験を指します。「介護等体験実習」の参加に際しては、実習費として1万2千円が必要になります。

また、「介護等体験実習」を終了した者は、施設長からの体験証明書を免許状の申請に添えて教育委員会に提出しなければなりません。

4. 「教育実習A」および「教育実習B」の履修前提条件と実習期間について

1. 履修前提条件について

4年次に実施される「教育実習A」、「教育実習B」を履修するには、条件が定められており、原則として、3年次までの「教職に関する科目」のうち下表に掲げる科目を全て修得しなければ、実習に行くことはできません。

[Ⅰ表]

学年	前 期	後 期
1 年	教職論 教育原理	教育社会学
2 年	教育心理学 情報通信技術の活用	教育方法論 教育課程論
3 年	教育実習指導(4 年次と併せて 1 単位) 数学科教育法1(数学コース) 情報科教育法1(情報コース) 道徳教育の理論と実践 (数学コースの中学校教諭免許状取得希望者)	教育相談の理論と方法 数学科教育法2(数学コース) 情報科教育法2(情報コース) 特別支援教育の理論と指導方法 総合的な学習の時間の指導法

※4年次には、「教育実習A」、「教育実習B」のほかにも、履修する必要のある科目がありますので、注意してください。

[Ⅱ表]

科 目(単位数)	開 講 期	対象学科	必要 単位数	備 考 ※注1
「法学A」(2 単位)	3	全学科	計 4 単位	「日本国憲法」 に対応する科目
「法学B」(2 単位)	4			
「スポーツ実技A」(1 単位)	1		計 2 単位	「体育」 に対応する科目
「スポーツ実技B」(1 単位)	2			
「英語スキル1」(2 単位)	1		計 2 単位	「外国語コミュニケーション」 に対応する科目
「Python プログラミング1」(2 単位)	3	情報システム学 科	計 2 単位	「情報機器の操作」 に対応する科目

※注1教育職員免許法第 5 条別表第 1 備考第 4 号(文部省令で定める修得すべき科目)及び施行規則 66 条の 6 関係

2. 実習期間について

免許状の種類により必要な教育実習期間が異なりますので、下記を参考にしてください。

(1)高等学校一種免許状を取得しようとする者は、2 週間の教育実習を必要とし「教育実習B」を履修しなければならない。

(2)中学校一種免許状を取得しようとする者は、原則 3 週間の教育実習を必要とし「教育実習A」「教育実習B」の両科目を履修しなければならない。